

平成30年度 学生による地域活性化プログラム

グラスルーツ グローバルイゼーション

—草の根・地域からの地球一体化・人類統合の推進—



広田秀樹ゼミナール
活動報告書

ご あ い さ つ



長岡大学 学長 村山 光博

長岡大学の「学生による地域活性化プログラム」は、平成19年度の文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）に選定された「学生による地域活性化提案プログラム―政策対応型専門人材の育成―」に始まり、平成25年度からは文部科学省「地（知）の拠点整備事業」（大学COC事業）に選定された「長岡地域＜創造人材＞養成プログラム」の一環として、発展・継続して取り組んで参りました。現在では、本学の特徴的な教育プログラムとして周辺地域における認知度がさらに高まってきていると実感しております。

長きにわたりこの取り組みを続けて来られたのは、ひとえに地域の皆様の暖かいご支援とご指導の賜物と、心より感謝申し上げます。この取り組みが地域の活性化にまだ十分に貢献しているとは言えませんが、これまで本プログラムの運営に多大なご協力をいただいた地域連携アドバイザーの方々だけでなく、地域のたくさんの方々からも各取り組みテーマに対するお問い合わせや激励のお言葉をいただいております。また最近では、取り組みの中心である学生の活動について新聞やテレビ等のメディアでも取り上げていただく機会が多くなりました。地域の皆様には、日頃より本プログラムへの多大なるご支援とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

「地域活性化とは何か」という問いに対する明確な答えは無いと思いますが、本プログラムでは、答えの無い地域課題に対して、それをどのように考え、どのように行動し、対応して行くのかを学生が自ら試行錯誤する中で体得していくことができます。本学を卒業して地域社会の一員となる学生が将来、地域が抱える課題に日々取り組んでいくことになる考えると、彼らにとってこれらの体験は大変貴重なものとなることでしょう。

本プログラムでは、各ゼミナールで設定したテーマの下で学生がグループで活動を進めて行くことになりますが、時には活動で一緒になる地域の大人たちとの意見の食い違いや学生同士のちょっとしたすれ違い等が起きることもあります。このような体験も学生がさらに一歩成長するきっかけとなります。ゼミで決めたテーマをまとめ上げるために、どのように他者とかわりながら取り組みを進めて行くべきなのか、この取り組みの中で自分の役割は何であるのか、などを考えながら活動を行っていくことで、チームで活動することの難しさだけでなく、チームで何かをやり遂げることの充実感や達成感を味わうことができます。

長岡大学の「学生による地域活性化プログラム」では、学生が地域の皆様と一緒に汗をかき、考え、そして楽しむことで、目先の地域貢献活動だけでなく、将来にわたって地域の活性化を担っていける人材の育成を目指しております。長岡大学の建学の精神は、「幅広い職業人としての人づくりと実学実践教育の推進」と「地域社会に貢献し得る人材の育成」です。本プログラムは、まさにこの精神を実現するための中核となる教育プログラムであると言えます。

平成31年3月

はじめに

グラスルーツグローバリゼーション ー草の根・地域からの地球一体化・人類統合の推進ー



長岡大学教授／ゼミ担当教員 広田 秀樹

1980年代末から1990年代初頭にかけての冷戦終結は、自由と民主の人類的拡大の契機となったフランス革命に匹敵する歴史的快挙でありました。1990年代から2000年代、2010年代と、グローバル資本主義が発展し、モノ・サービス・情報・技術・文化・人間など、あらゆるものが世界中を駆け巡る「グローバリゼーション（地球一体化）」は加速しました。

一方、近年の英国のEU離脱、米国の米国第一主義のように、自国にあった従来の安定的経済状況などを保護したいという市民ニーズも、大きな潮流になっています。グローバリゼーションは、「グローバル」と「ローカル」の調整を必要とする段階に入りました。

広田ゼミナールでは10年以上に渡って、「グラスルーツグローバリゼーション」、換言すれば、「グローバリゼーションと地域」をテーマに、ゼミ活動を進めて参りました。この「伝統的な大局的ゼミテーマ」を中心に、歴代のゼミ生たちは、具体的な活動を柔軟かつ大胆に変化させ活動にチャレンジし、「グローバルな広い視野」を身に付けてくれています。

具体的ゼミ活動の伝統として確立してきたものに、「グローバリゼーションを幅広く学ぶ学習活動（Study）」、「外国人の方等をゼミに招待し交流する招待活動（Invite）」、「外国人の方等が活躍する場に向かう訪問活動（Visit）」、「悠久祭でグローバル関連のお店を出店しその利益をユニセフに寄附する寄附活動（Donate）」、それら活動の「刺激」を切っ掛けにし深く関連知識を掘り下げる探究活動（Learn by Stimulation of Globalization：LSG）がありました。

本年度も、「ゼロベース思考」で「具体的活動方法」を探ることになり、ブレインストーミング、プレゼンテーションを活発に行いました。そして、LSGを発展的にとらえた活動として、地域の多様な「グローバリゼーション関連の事象」にコンタクトすることを契機に、グローバル人材の必須要件とされている「グローバルリベラルアーツ」を深めるという活動方針をつくりました。

ゼミ生達は、「グローバリゼーション関連の事象」を求め、異国風の飲食店で交流会、異国風のお菓子店への取材、海外からの留学生とのコンタクト、海外から地域に居住を移された外国の方との交流、外国の方が通われる教会などへの訪問などの活動を行い、それらを契機に、徹底して関連事項を自主的に学習し、プレゼンテーション、ディスカッションを行う中で見事に、「グローバルリベラルアーツ」を拡大しました。

さらに、自分達が獲得した「グローバルリベラルアーツ」を、未来を担う子どもたちに、わかりやすく伝えられないかと考えるようになり、フランスのフロランタン、フィナンシェ、タルト、マドレーヌ、ショコラ、イタリアのティラミス、イギリスのスコーン、パウンドケーキ、スペイン・ポルトガルのチュロス、アメリカのポテトチップス、アップルパイなど、子どもたちが先ず関心をもってくれる「お菓子」を教材にし、簡潔に世界を伝える活動にチャレンジしました。この活動は予想以上の大成功をおさめ、子どもたちが自分達の身近にある「お菓子」を通じて世界を知ろうとする意欲に、ゼミ生自身が圧倒されました。

本年度も、ゼミ生達が地域活性化プログラムで大成長してくれたことに心から感銘し、いつの時代も「時代を拓くのは若者の熱と力である」ことを再認識しました。

平成31年3月

平成30年度 学生による地域活性化プログラム

広田秀樹
ゼミナール

グラスルーツグローバル化～草の根・地域からの地球一体化・人類統合の推進～



【参加学生】22名

4年生 安達清志 王世銘 児玉拓実 孫雪 辰口朋日 趙博文
陳楠萍 和田充史 渡邊周三 王艶

3年生 佐藤光 徐晗 邵群 住吉千穂 曹慧虹 政金光希 諸橋摩耶
Tran Thi Phuong Anh 黎雪鋒 Vu Thai Thanh Le Si Anh Phu

2年生 三本真太郎

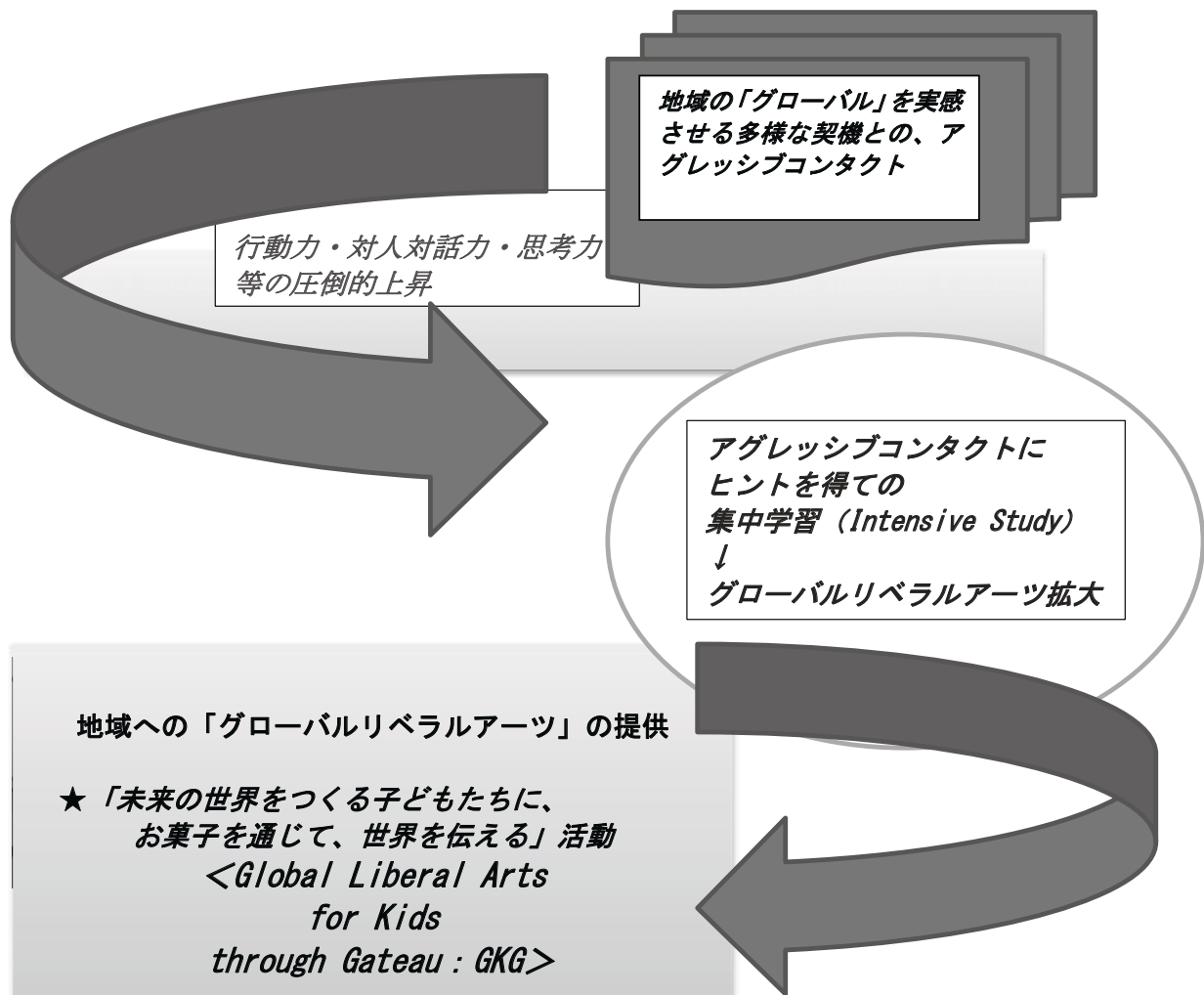
【アドバイザー】

グリーン・フィロソフィー 大出 恭子 氏

フェアトレードショップ・ら・なぶ オーナー 若井 由佳子 氏

—本年度の活動方針—

「地域の多様なグローバルへのコンタクトを通じてのグローバルリベラルアーツ拡大」



グラスルーツ・グローバリゼーション
―草の根・地域からの地球一体化・人類統合の推進―

広田ゼミナール

参加学生：15K003 安達清志、15K015 王世銘、15K040 児玉拓実、15K066 孫雪、
15K071 辰口朋日炉、15K074 趙博文、15K075 陳楠萍、
15K108 和田充史、15K111 渡邊周三、15K301 王艷、16K036 佐藤光、
16K038 徐晗、16K039 邵群、16K043 住吉千穂、16K046 曹慧虹、
16K063 政金光希、16K070 諸橋摩耶、16K306 Tran Thi Phuong Anh、
16K308 黎雪鋒、16K309 Vu Thai Thanh、16K310 Le Si Anh Phu
17K109 三本真太朗

目 次

1. ゼミ活動の概要	1
1.1 前年度までのゼミ活動	1
1.2 今年度のゼミ活動	1
1.3 フェアトレードとグラスルーツ・グローバリゼーションについて	1
2. グローバルリベラルアーツを学習する	1
2.1 グローバルリベラルアーツ	1
2.2 学習目標	2
2.3 学習内容	2
2.4 グローバルリベラルアーツの歴史	2
3. シリア人ムハンマドさんとの交流	2
3.1 シリアにおける内戦問題	3
3.2 シリアにおける難民問題	5
4. ロシア人スヴェトラーナさんとの交流	7
4.1 ロシア革命	7
4.2 医療・福祉	8
4.3 食文化	9
4.4 ロシア正教	10
5. 「日本が関係した戦争」の学習	11
5.1 日清・日露戦争について	12
5.2 日米関係について	13
5.3 日本神風特攻隊	14
6. ベトナム料理店「サイゴン」の訪問	16
6.1 ベトナムの現状	16
6.2 ベトナム料理店「サイゴン」の訪問	17
7. スリランカ料理店「あ〜ゆぼ〜わん」の訪問と隣国インドの学習	20
7.1 スリランカの基礎知識	20
7.2 長岡市のスリランカ料理店「あ〜ゆぼ〜わん」	21
7.3 インド	23
8. 地域の教会と子ども食堂	27
8.1 子ども食堂に関与する活動をするにあたって	27
8.2 キリスト教会と子ども食堂	28
8.3 長岡市内の子ども食堂	33
8.4 経営学による資源分析	37
8.5 日本で子ども食堂が広がるためには	39
8.6 まとめ	39
9. ファッションの国際化	39
10. おわりに	40

グラスルーツ・グローバリゼーション

ー草の根・地域からの地球一体化・人類統合の推進ー

1. ゼミ活動の概要

1. 1 前年度までのゼミ活動

私たち広田ゼミナールでは、グラスルーツ・グローバリゼーションというテーマの下で、10年近くにわたり、様々な活動を行ってきた。前年度までは、国際的教養・フェアトレード商品についての学習、それらを扱っているお店の方へのヒアリング、フェアトレード商品の販売、PRと地域活性化を目的にした地元の長岡野菜とフェアトレード商品の「カレーの壺」を使ったカレーライスを学園祭で試作・販売するといった活動を行ってきた。

1. 2 今年度のゼミ活動

長岡への「模擬原子爆弾投下の歴史」について、学習し衝撃を受け、日米開戦・戦争・紛争・世界の摩擦・人間の争い・人間の相互不理解について深く考察した。その中で、外交の失敗、欧米アジアの文明間対話の欠如、抑止の失敗、軍産複合体、人間の未熟さなど多くの意見が出た。その後、ロシア人のスヴェトラナさん・シリア人のムハンマドさん・スリランカ料理店の店主ナヤニさん・ベトナム料理サイゴンのエンさんからその国の歴史・文化などを学習した。また、長岡聖契キリスト教会の日吉牧師と交流する中で子供の貧困の現状を知った。

1. 3 フェアトレードとグラスルーツ・グローバリゼーションについて

グラスルーツ・グローバリゼーションとは、経済・情報・文化・政治などあらゆる点で、世界的交流が盛んになり、世界全体が一体化していく潮流を、地域から促進することである。

フェアトレードとは、公平貿易の意味を持ち、発展途上国で作られた作物や製品を適正な価格で継続的に取引することにより、生産者の持続的な生活向上を支える仕組みであり、消費者が自分の気に入った商品を選択し、購入することで発展途上国の生産者を支援できる「身近な国際協力」の形の一つである。

2. グローバルリベラルアーツ

2. 1 グローバルリベラルアーツとは

グローバルリベラルアーツ (Global liberal Arts) とは、「世界全体・人類全体の相互理解促進の基盤につながる世界的スケールの教養・知識」である。

2. 2 学習目標

グローバルゼーションに関するあらゆる地域の身近な事象に接する中で、当ゼミに所属する学生の頭脳にグローバルリベラルアーツを拡大することを、本年度の基本目標とした。

その中には、地域で活動している外国人と徹底して交流・対話をし、それをきっかけに交流した外国人の母国について集中して学ぶことで、グローバルリベラルアーツを拡大することも含むことにした。

2. 3 学習内容

当ゼミでは外国人との交流や、長岡市で起こった歴史的な出来事について学習している。その中で、長岡への模擬原子爆弾投下の歴史について学習していた時にとっても衝撃を受けた。そのことがきっかけとなり、広田ゼミナールでは、日米開戦・戦争・紛争・世界の摩擦・人間の争い・人間の相互不理解について深く考察した。外交の失敗、欧米アジアの文明間対話の欠如、抑止の失敗、軍事複合体、人間の未熟さなど、様々な意見が出た。このことで、自国とは違う相手国を知ろうとする態度や歴史、文化、未来への方向性などの学習が大切だと考えるようになり、グローバルリベラルアーツの学習を始めた。グローバルリベラルアーツの学習を始めたことにより、より一層世界への関心を得ることができたとともに、長岡市に住んでいる外国人の懸命に生きる姿を知ることができた。

2. 4 グローバルリベラルアーツの歴史

リベラルアーツが生まれたのは古代ギリシャである。当時のリベラルアーツとは人を自由にする学問で、それを学ぶことで一般教養が身につくものであった。主な内容は、三学（文法法・論理法・修辞法）と四科（幾何学・算術・天文学・音楽）であった。現在の大学で行われているリベラルアーツ教育ではおもに三つのタイプに分かれている。一つはLate Specializationと呼ばれており、基礎文学を幅広く学んでいく過程で、自分の専攻する分野を決定していくものである。二つ目は4年間を通じて教養教育のみを行うものであり、多くの大学がこのタイプである。三つ目は学際系と呼ばれている。学際系には二つの種類があり、一つのテーマを複合的な学問的視点から考察するものと、一つの専門領域を深く学びつつ、それを支える複数の学問領域も学ぶものである。グローバルというテーマについて様々な観点で学んでいる広田ゼミは、この学際系に分類されると言える。

3. シリア人ムハンマドさんとの交流

日時：2018年7月3日・14:40～16:10

講師：国際大学1年 ムハンマド氏

コミュニティ・リーダーズ・ネットワーク代表 大出恭子氏

国際大学より、シリアから編入して在学中のムハンマドさんをゼミに招き、ご自身のプレゼンテーションを通じて自国シリアの社会情勢を学んだ。冷戦時代のソビエト連合側

との関係性、冷戦終結後の社会的な不安定や混乱、国際テロ組織の発生やロシアやアメリカといった大国の介入による混乱を、中東での長い歴史を根幹に知識の習得を図った。ゼミでは、講話を聴いた上でシリア情勢に対して意識的に関心を持ち、「戦争」と「難民」の二つの問題に視点を置いて調査を重ねた結果をまとめた。

3. 1. シリアにおける内戦問題

3. 1. 1 概要

シリア内戦は各国・各勢力の思惑が露骨に衝突した戦争となっており、それがこの紛争の解決をより一層難しくしている。アラブの春に影響を受けた、当初の目的である平和的な反政府デモを発端とするものの、その後は反体制派が周辺国からも入り乱れて過激派にとって代わられることで双方の対立が激化。その反体制派からは ISIL まで生んだ。

シリアにおける内戦は、2011 年にチュニジアで起きたジャスミン革命の影響によってアラブ諸国に波及したアラブの春の潮流の一つであり、シリアの歴史上未曾有のものと危機感が持たれている。

チュニジアのジャスミン革命とエジプトの民主化革命のように、初期はデモ行進やハンガーストライキを含むさまざまなタイプの抗議の形態をとった市民抵抗の持続的運動とも言われた。ロイター通信によれば、初期の戦闘はバッシュール・アル＝アサド政権派のシリア軍と反政権派勢力の民兵との衝突が主たるものであったが、サラフィー・ジハード主義勢力のアル＝ヌスラ戦線とシリア北部のクルド人勢力の間での衝突も生じている。



—ゼミ学生にプレゼンを行うムハンマド氏—

現在は反政権派勢力どうしでの戦闘が顕著になってきている。社会の混乱に乘じ過激派組織 ISIL や「アル＝ヌスラ戦線」、またクルド民主統一党をはじめとしたシリア北部の勢力「ロジャヴァ」が新たに参戦した。

アサド政権の打倒および ISIL 一掃のためにアメリカ・フランスなどの先進国軍も介入したほか、ロシア・イランもシリア領内に空爆を行っており、内戦は泥沼化している。

2018 年 3 月 9 日、シリア政府軍は反体制派が支配するバイト・サワー村を制圧し、東グータ地方を南北に分断した。さらに翌日、政府軍は東グータ地方をドゥーマ市および同市北部一帯、ハラスター市一帯、それ以外の南東部の三つに分断する事に成功した。

同月 15 日、政府軍が東グータ地方中部ハームリーヤ市を制圧し、同市の住民約 2 万人が政府支配下の地域に避難した。15 日には、ダマスカス近郊ヤルムーク・パレスチナ難民キャンプで政府軍と IS 軍の停戦合意が成立した。なおそれ以降政府は東グータの前線を視察していた。

22 日、ロシアの仲介により 20 日に成立したシリア政府とシャーム自由人イスラム運動の停戦合意により、東グータ地方ハラスター市の戦闘員と家族の退去が完了した。この中で、IS 軍はシリア政府とラフマーン軍団の停戦合意に従い、東グータ地方のアルバイン市から退去を開始した。

もともと内戦が続いていた状態の中、IS 軍などの新勢力の台頭やそれに反する先進国の参入といった要素が社会をさらなる混乱に陥れていたと強く感じられる。

3. 1. 2 シリア戦争解決策

シリアで内戦が激化していた理由として、主に次の四つの要素が挙げられる。まずは、アラブ・イスラム世界の中で敵対関係にあるイスラエルなどと国境を接するという地理的事情である。次にシリアバース党政権が一貫した親ロシア・イランの態度をとる一方、親欧米・親 NATO 諸国であるサウジアラビアを中心としたスンニ派の湾岸諸国とは激しく対立している点だ。

三つ目としては、トルコ政府と対立するクルド人に関連した問題がある。さらに四つ目はアサド大統領がシーア派の分派でありキリスト教の影響の強いアラウィー派で、イスラム色の薄いスンニ派も含めた世俗派主体に支持者が多いのに対し、反政府勢力はスンニ派イスラム主義勢力が多く、世俗主義とイスラム主義の対立が挙げられている。

2018 年 4 月の段階では、内戦の唯一の解決策は対話であるという。ロシア大統領府は 4 月 16 日、「同盟国であるシリア」に対するアメリカ主導の攻撃があったものの、なおアメリカ政府との対話を望んでいると表明する。

ロシアのドミトリー・ペスコフ大統領報道官は、「目下、アメリカ政府が二国間関係にダメージを与えている」にもかかわらず、「何らかのコミュニケーションが始まることを我々は望んでいる」と述べる。

同日、EU 欧州連合は、ルクセンブルクで開いた外相理事会で、シリア情勢を議論し、内戦の政治的解決に向けたプロセスの後押しを模索する方針だ。

なおドイツはフランスと協力して、シリア問題の解決を目指す新しい交渉の開始に努力する用意があるとの姿勢を示している。

シリアの和平に向けた主な取り組みは、ここ 2012 年より十七回行われている。2012 年のアナン国連・アラブ連盟合同特使による調停案、同年後半のブラヒミ国連・アラブ連盟

合同特別代表による停戦案、ジュネーブ 1・2・3 和平会議、ウィーンプロセス、デミストゥラ国連特使によるジュネーブ合意履行に向けた作業委員会設置の提案など、懸命に取り組まれているがいずれも失敗に終わっている。

その結果、約 500 万人の難民と約 800 万人の国内避難民が発生し、死者数は 40 万人にも達している。過去の和平交渉がいずれもとん挫しているのに、アメリカ政府は新たな交渉がうまくいくと思っているのだろうか。恐らくそうは思っていないように感じられる。しかし、軍事力の活用という政策を断念した今、残された道は外交の努力しかないのである。シリア内戦で完全なる勝利が収められなかった場合、待っているのは完全なるシリア和平の消滅だ。これを考えれば、総勢 400 万人の国内少数派であるイスラム教アラウィー派を母体とするアサド政権が、リビアのカダフィ政権のように崩壊するとかつてオバマ政権が予想したのは浅はかだ。

アサド政府軍の残忍さは、自分たちがそうした扱いを受けることに対する恐怖の表れにすぎない。彼らが残忍さを増すのは、そうせざるを得ないからだ。勝利か死かという二者択一の論理はどうしたら乗り越えられるのか。最善の選択肢は国の分割だ。こうした考え方は新しいものではなく、分割はうまくいかないことが多いという指摘もある。境界の線引きは厄介で、境界を決めても内紛が解決されるとは限らない。むしろ悪化する可能性さえある。そのうえトルコをはじめとする外部の当事者がさまざまな根拠に基づいて、さまざまな手段で反対する可能性があるからだ。

今回シリア内戦に焦点を当て調査して感じたことは、現代ではとにかく世界平和が望まれているという事実だ。それはシリア・イスラム地域においても、それらに干渉する先進諸国においても同様である。

3. 2 シリアにおける難民問題

3. 2. 1 概要

シリア内戦の問題を語る時、無視できないのが難民問題である。今やシリア国内の ISLM などの反政府勢力は壊滅しつつある。しかしだからと言って社会的混乱が落ち着いたわけではない。難民問題の進展にはまだまだ多くの課題がある。

当ゼミの活動報告書では、グローバルリベラルアーツの概念のもとで、過去の難民問題へのアプローチを調査するとともに、現代の国際情勢を知るうえで必要なことは何かを探ることを意図している。

シリア難民の情報を得るとき、私たちはまず国際難民機関（UNHCR）を調査した。UNHCR は、世界的に難民を保護し、難民問題を解決するための国際的な組織である。

3. 2. 2 難民の発生要因

UNHCR によると、シリア難民の数は世界でトップになっている、トップ 30 年のアフガニスタンを一挙に超えた。だから私たちはこの話題について議論している。

シリア難民の主な原因は言わずもがな、国の内戦にある。2011 年 3 月にはシリアの内戦が全面的に爆発した。2012 年 5 月、シリアの 108 人が虐殺され、その中には 49 人の児童

が含まれている。多国はシリア外交官を駆逐し始めた。2012 年 9 月からシリア難民の発生が加速し、毎日約 6,000 人が国境を越えた。その後、シリアは空襲、神経毒ガス、ミサイル襲撃などに遭遇し、難民の問題のむごさが顕著になってきた。

3. 2. 2 難民の移動状況

シリアの難民はまず、三つの隣国のトルコ、レバノン、ヨルダンに向かって逃げる。2017 年までに、避難民はトルコには 300 万、レバノンには 200 万、ヨルダンには 100 万を超えている。2017 年までにドイツ、スウェーデン、カナダなどの西側諸国でも 100 万人を超える難民を受け入れた。図 2 は 2015 年の時点での、各国の難民受け入れ数のデータである。上から、トルコ、パキスタン、レバノン、イラン、エチオピア、ヨルダンとなっている。

また、各国がシリア難民を受け入れる目的も同じではない。ドイツが難民を歓迎するのは道徳的意識と経済的観点に起因している。ドイツでは、自国も第二次世界大戦中の苦しさを経験しているからか、難民を助けることに對し意欲的だ。しかしドイツの人口は毎年減少し、青年人口の労働力は不足している。そうした中で難民を受け入れて、国内の労働力の問題を緩和できる可能性はある。

イギリスが難民を受け入れるのは政治的目的でしかない。イギリスは人道的に冷酷な国ではないことを示している。そのためイギリス社会は、少数の難民を象徴的に受け入れる手法を取ったのである。東欧諸国は宗教信仰を理由に難民の受け入れを拒否している。ハンガリーのように国境を越えて壁を建設し、シリアの難民の不法侵入を防いでいる例もある。

3. 2. 2 難民問題の解決に向けて

今もシリア難民は、入国禁止や駆逐の問題に直面している。さらに、入国した難民の中にも言葉が通じないこと、生活上の様々な不便といった難題を抱えている。無数の難民が逃亡の途中に、飢饉で犠牲になったことは事実である。

シリアの男の子が溺れたビーチの写真は、世界を震撼させた。だがその背後には、300 万人のシリア難民集団がある。彼らは自国から逃げ住まいを求めているが、彼らが必要とするのは単に生きることだけではない。以前のような人間的な生活を望んでいるのである。

現在、国際情勢を見ると国際難民サミットに希望を託すしかないように思われる。シリア国内では、三方勢力が殺し続けている。三方勢力は停戦協義を守って、国内の平和を保証していた。難民を受け入れる各国は、難民を合理的に手配し、一定の雇用機会と公平な生存条件を与えることを目指すべきであると感じられた。

シリアは中東地域に位置し、戦略的な位置が重要で、鉱物資源が豊富である点が世界各国から注目されている。そして中東は極度の水不足で、宗教事情上の種族の軋轢が根強く国家内部では四分五裂し、戦争は未だ収束していない。戦争の勃発で最も苦勞したのは庶民である。だから私たちは平和を主張し、戦争と宗教の極端な組織に反対している。

4. ロシア人スヴェトラナ氏さんとの交流

日時：2018 年 7 月 10 日・14:40～16:10

講 師：長岡市在住 スヴェトラナさん

フェアトレードショップ店主 若井由佳子さん

国際知識に触れる一環として、長岡市に在住しているスヴェトラナさんが、ゼミへ来てくださり自国ロシアの文化について学ぶことができた。ロシアと日本の二国での生活経験のある方だからこそ、双方の文化や風習を比較して考えることができた貴重な体験となった。当ゼミではそれをきっかけとして、現代人が身に付けておくべき国際的な教養の一つとしてロシアに再度関心を向け、歴史的な社会革命と食文化、福祉環境、宗教文化に分けて今回の活動報告書にまとめた。



—スヴェトラナさんはロシアの歴史・文化など幅広く講義して下さい—

4. 1 ロシア革命

ロシア革命は1905年に第1次革命「血の日曜日事件」、1917年に第二次革命「二月革命」「十月革命」革命が起きた。

4. 1. 1 血の日曜日

この時代はニコライ二世が皇帝であり、農民や中間層の暮らしとはかけ離れておりニコライ二世の評判は下がっていった。

日露戦争のさなかに第一次革命の「血の日曜日事件」が1905年1月に、解雇された労働者と全市民がストライキをしたことで起こった。民衆のデモ隊に軍隊が発砲したことで多くの民衆が亡くなり「血の日曜日事件」と呼ばれるようになった。

ストライキの人数はさらに増え続け支配下にあったポーランドやフィンランドから独立の声が上がった。

立場が危ういと考えたニコライ二世はポーツマス条約締結と同時に、ドゥーマ（行政議会）を設立し「十月宣言」が提示された。

そのおかげでデモやストライキが大幅に減った。

4. 1. 2 二月革命・十月革命

(1) 二月革命

1914年に第一次世界大戦が始まり、何年も戦争が続いたことで、貧困や食糧不足、戦争による死者と負傷者の問題が起き不満を持つ人が増えた。

パンやバターの値段が上がり、パン不足に対する抗議のストライキがはじまり、皇帝や戦争に反対するデモ行進が広まった。

しかし、ロシア政府は何もせず警察と軍隊が機関銃で射撃をし、多くの人が殺され、市民は解散した。そのあと軍隊が市民側につき、市民は武装してデモをするようになり、中央銀行、兵器庫、橋、電報局、駅を占領、ペトロパヴロフスク要塞を攻撃し、様々な監獄にいる囚人を開放していった。

その結果ニコライ二世を退位させ捕らえことでロシア帝国が崩壊した。

(2) 十月革命

ウラジーミル・レーニンの共産主義イデオロギーの信奉者のボリシェヴィキと臨時政府が対立し、二月革命の結果に不満を持つ民衆を集め「赤衛隊」となり、一緒に二月革命の前に戻す反乱を起こす。

臨時政府との闘争に勝利し世界初の社会主義政権、ソビエト政権を樹立。臨時政府が倒れたことでロシア革命が終わりロシアの経済は回復をしていく。

4. 2 医療・福祉

4. 2. 1 OMS

ロシアでは OMS（強制医療保険）をすべての国民が持っており、無料で国立の医療機関の診断を受けることができる。

軽い症状でも自宅に無料で医者を呼ぶことができるサービスがあり、また救急車を呼ぶこともできる。しかし、指定されたところ以外で受診をすることしかできないことと無償で診断ができることから長時間の待ち時間ができてしまう。

それに比べ民間の病院では、医療費がかかり無償ではできない最先端な医療や重病の治療を受けることができる。

4. 2. 2 DMS

DMS（個人医療保険）は OMS とは違いその保険に入りたい人だけが追加して加入することができる保険であり、契約によって価格や保険のサービスの内容を決めることができる。DMS に加入している人は企業から社員に法人契約として提供されることが多く、一般の人

はあまりその保険に入ることはない。

4. 2. 3 医療保険の歴史

第二次世界大戦中の 1936 年に全国民の医療費を無償化する制度をソビエト連邦憲法が確立し、マシュコモデルと名付けられる。

医療だけでなく日常生活を改善するための予防にも力を入れた診療所や、予防接種をなどのワクチン接種をする義務が作られた。

第二次世界大戦時、ソビエト連邦とドイツ第三帝国との「大祖国戦争」でこの制度の成果を出すことができた。

1960 年代以降、医療費が無償であるため医師は賃金が低かったことが原因で賭け事をしてお金を受け取る風習が蔓延っていた。

ソ連崩壊後は今日のような医療費が無償になる OMS と DMS の医療保険があるが、未だに医師への評価は低いところもある。無償化の制度ができたことで民間の医療機関の質が比べられ、国立の医療機関の医師が信頼されにくく差が開いてきている。

4. 3 食文化

ロシアは地理的に国土が広く、アジアやヨーロッパの国々と接しているためその国の料理の影響をロシア文化に与えている。

さらに、寒冷地であるため体を温めるために脂質のあるチーズやバター、長期保存ができるようにピクルスやジャム、塩漬け、瓶詰、燻製、缶詰、ペチカ（暖炉）で保存食を使った暖かい料理もある。

食事を一品ずつ配膳されるコースはロシアが発祥であった。「ロシア式サービス」ができるまではその時に食べる料理をすべて食卓に並べられていた。しかし、寒さで料理がすぐに冷め、味が損なわれてしまうため順番に料理が出され、熱いまま食べることができるロシア式サービスが宮廷で誕生した。「ロシア式サービス」と呼ばれフランスを經由して世界へ広まった。

4. 3. 1 ロシア正教会との関係

ロシアの食文化の根幹となる復活大祭（イースター）は六週間肉や牛乳を食べないようにし、それを除いた精進素材の料理が増えてきた。ロシア正教会では齋を行う際に油脂食品も禁止されていたがヒマワリについては禁止されていなかったためヒマワリの種子やヒマワリ油を使った料理が生まれた。

今ではヒマワリをロシアの国花とし、ロシア正教会ではないロシア人でも食べられるようになり世界一の生産量となった。

4. 3. 2 ロシア料理の歴史

16 世紀から 18 世紀にかけて領土拡大されていくことで外国との交流が増え、様々な調理方法が増えてきた。

17 世紀から 18 世紀前半にピョートル大帝が様々な制度をヨーロッパ流に変えていき、

料理もそれに含まれていた。

貴族たちはフランス人の料理人を多く雇うことがあり、ロシア料理はフランス料理の影響を受けていくことになる。

4. 4 ロシア正教

キリスト教東方正教会の中で最大の派閥であり、ロシア正教はロシアの半分以上の人が信仰している。

4. 4. 1 ロシアのキリスト化の始まり

944年にロシアで王族や権力を持っている人達のキリスト化が進んでいきイーゴリの妃オリガは夫が亡くなるとキリスト教に改宗する。

ビザンツ貿易はロシアにとってはメリットが大きかったためキリスト化がさらに進んでいく。

イーゴリ・リュールニコヴィチの妃オリガはコンスタンティノーブルのビザンツ皇帝と会談し、交易が拡大されることに期待された。ウラジーミル1世はキリスト教徒に改宗し、政策によってキリスト教をロシアに取り入れた。

4. 4. 2 ロシア正教と政治

1917年に二月革命でロシア帝国が崩壊した後、正教会は改革の兆しが見えたかと思えたが反教会の時代へと変わっていく。

十月革命にはボリシェヴィキが政権を傘下に収め、正教会を打破するための反教会の共産政権が生まれた。

ボリシェヴィキは正教会の聖職者から選挙権を奪い、多くの修道院や大聖堂を封鎖することで1920年代から1930年代まで正教会を弾圧、1922年にロナウド・レーガンが教会の財産を没収した。

1925年に反教会の「ソ連邦無神論者同盟」が誕生し、ソビエト市民に宗教を信仰させないために有害な事だとソビエト連邦に広め、1929年に「戦闘的無神論者同盟」と改組した。第二次世界大戦に起きた大祖国戦争の際にフランクリン・ルーズベルト大統領はヨシフ・スターリンに信仰を自由にさせるように様々な力で脅迫した。ヨシフ・スターリンは「戦闘的無神論者同盟」を解散させ、正教会から総主教を選出できるようにし、補助もするようになった。

しかし、指導者がニキータ・フルシチョフに代わると再びロシア正教への反教会の政策が作られるようになる。フルシチョフ政権は教会、神学校を半分以上減少させたがロシア正教は存続のため、ソビエト国家への協力を続けた。

ゴルバチョフ政権に代わるとペレストロイカの時代に礼拝が認められ、1991年にソ連が崩壊した後政府は信仰を自由にし、迫害を受けなくなった。

4. 4. 3 八端十字架

八端十字架はラテン十字と比べると二本の横線が多く、八か所の先端があり、下の横線

は斜めになっている。上の短い横線は「ユダヤ人の王・ナザレ人イエス」といい、「罪状札」を表されている。

正教会では十字架に足台を付けていたため下の斜めになっている横線は「足台」を表している。処刑をする際に足台を付けていないとすぐに罪人が窒息死してしまうため足台を付けられた。足台があることでゆっくり、長く時間をかけて生かし続けながら罪人に苦しみを与えることができる。下の横線が斜めになっている理由は、イエス・キリストを十字架に縛り付け磔にされたのと同じ日に、イエス・キリストの左右に罪を犯した盗賊も一人ずつ磔にされる出来事があったことからだ。イエス・キリストから見て左の盗賊はイエス・キリストに逆らい抵抗をする態度をとった。イエス・キリストから見て右の盗賊は逆らうことや抵抗することもなく心を入れ替え、天国を約束された。右側にいた盗賊は「右盗」と呼ばれ、イエス・キリストから見て足台の右側が上に向いているのはそのようなことがあったからだ。

5. 「日本が関係した戦争」の学習

ゼミでの学習の中で、1945年7月20日、長岡市、左近町に米軍B29が飛来し、「模擬原子爆弾」を投下したという事実を知った。



—1945年8月20日長岡に模擬原子爆弾投下が投下—



—模擬原子爆弾投下地点跡地の碑—

もし日本がポツダム宣言を受け入れずに、8月15日の終戦が無かったらならば、長岡は第三の被爆地になっていたかもしれないと考えた時に、日本が関係した戦争について、徹底絵して学習しようということになった。

5. 1 日清・日露戦争について

1894年、朝鮮での甲午農民戦争と呼ばれる大規模な反乱が発生したのを契機にして、日清両国が朝鮮に出兵し、日清戦争が起こった。次に義和団の乱が起こると、日本を主力とする8カ国連合軍は、1900年北京に進駐した。続いて、満州を占領していたロシアが韓国に勢力を伸ばすやいなや、日本はイギリスと同盟を結んでロシアに対抗し、1904年にはついに日露戦争が勃発した。

1904年2月10日には日本政府からロシア政府への宣戦布告がなされた。2月23日には日本と大韓帝国の間で日本軍の補給線の確保を目的とした日韓議定書が締結された。

同年4月30日～5月1日の戦闘で、日本陸軍の第一軍は安東の近郊の鴨緑江岸でロシア軍を破った。

5月26日、旅順半島の付け根にある南山のロシア軍陣地を攻略した。南山は旅順要塞のような本格的な要塞ではなかったが堅固な陣地で、第二軍は死傷者4,000人の損害を受けた。一方、ロシアのバルト海艦隊の極東回航がほぼ確定し、追い詰められた海軍は開戦当初から拒み続けてきた陸軍の旅順参戦を認めざるを得なくなった。

8月7日より海軍陸戦重砲隊が旅順港内の艦船に向け砲撃を開始し、旅順艦隊に損傷を与えた。

翌年、日本軍は、ロシア軍の拠点・奉天へ向けた大作戦を開始する。2月21日に日本軍が攻撃を開始。日本軍は3月10日に奉天を占領したが、またもロシア軍の撃破には失敗

した。

アメリカの仲介により講和交渉のテーブルに着いた日本・ロシアは、アメリカ・ニューハンプシャー州・ポーツマス近郊で終戦交渉に臨み、1905年9月5日に締結されたポーツマス条約により講和した。

明治末期には日清・日露という大きな戦争が起こったが、その勝利を通じて日本は歴史上初めての海外植民地を手に入れ、帝国主義国に転化していった。

当時、現在の慶応大学の創立者であり「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず」と主張していた福沢諭吉さえ、1885年には「脱亜論」を展開し、アジアを蔑視し、「朝鮮・中国と接する時は、ヨーロッパの国々が接するのと同じやり方で接すればいいのである。」と侵略を肯定するようになった。

そして日清戦争に当たっては、「これは文明と野蛮の戦争であり、文明国日本にとって、清との戦いは正義の戦いである」と新聞に書くに至ったのである。日清戦争に対する日本国内では「好戦気分」が浸透していた。

日露戦争は薄氷の勝利であったとはいえ、アジアの小国日本が世界の大国ロシアを破ったというニュースは、日本人は言うまでもなく、19世紀以来、ヨーロッパの列強の侵略に悩まされてきたアジア諸国の人々を驚喜させた。

独立後最初のインド大統領となったジャワハルラール・ネルーも「日露戦争での日本の勝利は、アジアの民衆に民族独立への大きな希望を与えた」と書いている。

ところが、日韓併合など、日本がその後にとった行動は、ことごとくアジア民衆の希望を裏切るものだった。

日本はヨーロッパ列強諸国と手を結び、アジア支配に加わったのである。まさに「脱亜入欧」である。これを知ったネルーは、「しかし、気がつく、それは希望を与えたのではなく、飢えた狼をもう一匹増やしただけであった」と自身の日本に対する肯定的な姿勢を翻している。

日本政府は日清戦争で得た賠償金をもとに金本位制を確立し、1901年に鉄鋼生産のために官営の八幡製鉄所が操業を開始し、兵器、造船など諸産業発展の基礎を作り上げた。

こうした産業革命の展開の中で、三井家、岩崎家（三菱）などの政商が巨大な産業資本家となり、二つの戦争を通して財閥を形成するようになった。

1912年明治天皇が没し、大正の世となった。1914年に第一次世界大戦が始まると、日本は日英同盟を口実にして参戦し、翌年には中華民国の袁世凱政権に中国の主権を侵す「二十一カ条要求」をつきつけ、その大部分を強引に認めさせた。

第一次世界大戦はかつてない好景気を日本にもたらし、戦争成金が続出した。日本の輸出は1914年から1919年までの5年間で4倍以上に増加したばかりか、債務国から債権国へ転じ、工業生産額は農業生産額を上回り、工業国の仲間入りを果たしたのである。

5. 2 日米関係について

1944年9～11月のペリ琉（ペリリュー）島戦争は、アメリカと日本が太平洋の戦場で最も悲惨な戦いである。戦争の初期、米軍の少将の予言は四日間で戦争を終えることだった。しかし結局、この大死傷率の攻防戦は、戦後最も物議を醸した戦争の一つとなった。

パース諸島は西太平洋の日本の防護内輪の外郭に位置して、西からライト湾で 1000 キロメートル、アメリカ軍の大將マッカーサーがフィリピンに侵攻した中で考案された。

マッカーサーの想定では、アメリカ軍は 1944 年 9 月 15 日にベリ琉に上陸し、その空港を占拠し、一ヵ月内にパピタル諸島全体を支配するものだった。アメリカ人にとっては、日本軍の配備はとても質が悪く部隊の人数も多くないため、成功するのは手ごろな仕事であると考えられていた。1944 年にマリオ諸島で得た輝きは彼らに大きな決行を成功させ、日本軍の戦争能力に対して一定程度の軽視をさせた。

ベリ琉島に侵略したのはアメリカ海兵隊のトップだった。この部隊はガダルカナル島の戦争を経験した主力部隊だった。トップの陸戦師の死後、第 14 師団派遣参謀の村井權治郎少将によって指揮されたのは、「山猫」と呼ばれる米軍第 81 歩兵師団との戦闘である。ベリ琉島からの 10 キロメートル離れたアンガエル島を中心に、大隊の日本軍が防衛されたことにより師団の作戦は成功した。その後彼らは予備隊として、ベリ琉島の戦争を援助する準備をしていた。

パース諸島は米軍の戦略中心ではなく、フィリピン戦争のライト島に上陸するための第一段階だ。パースは地理的に重要で、条件の十分な深い水の良港を持って、大型艦隊に寄港することができる。

太平洋戦争といえば、真珠湾から数えて、サンゴ海、ミッドウェー、ガダルカナル、フィリピン、ライト湾、硫黄島、沖縄、最終的に広島と長崎の原爆投下を経て終戦する。これらの激しさが長く続いた戦争や、前史書では大書特書の戦略と比較して、ベリ琉島の戦争の存在は過少に考えられるようで、一般的に看過されてしまう傾向にある。

5. 3 日本神風特攻隊

攻撃の成功がそのまま死につながる「十死零生」という、世界の戦争史の中でも稀な作戦ゆえ、戦後 70 年を超えても未だ評価の定まらない「神風特攻隊」。

ある者は、それを「究極の愚策」と罵り、ある者は、国に殉じた若者たちの美談と讃える。

一体神風特攻隊はどんな形で戦争史に存在していたのだろうか。まず神風特攻隊の由来から触れていく。

5. 3. 1 神風の由来

神風（かみかぜ、しんぷう、かむかぜ）は神道用語。神の威力によって吹く強い風を意味する。古くは日本書紀の垂仁紀において、「神風（かむかぜ）の伊勢の国は常世の波の敷浪の帰する国なり。この国に居らむと思ふ」という倭姫命（ヤマトヒメノミコト）が天照大神から受けた神託などに登場する。

「神風の」は伊勢にかかる枕詞である（「神風や」は伊勢神宮に関係の深い五十鈴川などにもかかる）。

5. 3. 2 元の神風

文永（ぶんえい）・弘安（こうあん）の役（えき）での二度にわたる元軍の侵攻を受けた

際に、元軍に大損害を与えた暴風雨のこと。 中国大陸・朝鮮半島をほぼ制圧した元は、日本に対して元の属国となって朝貢することを迫った。 この要求を時の鎌倉幕府執権・北条時宗が拒絶したところ、1274 年（文永 10 年）と 1281 年（弘安 4 年）の二度にわたり武力併合を行うべく、征服併合した高麗らの軍勢を従えて大船団で日本本土に攻め寄せた。

第一回目の侵攻である文永の役では、元側の史料『高麗史』によると、博多湾から上陸した元軍は日本軍の激しい抵抗を受け、副司令官である左副元帥・劉復亨が負傷するなど苦戦したため、元軍総司令官である都元帥・忽敦（クドゥン）は「孫子の兵法に『小敵の堅は、大敵の擒なり』とあって、少数の兵（元軍）が力量を顧みずに頑強に戦っても、多数の兵力（日本軍）の前には結局捕虜にしかならないものである。疲弊した兵士を用い、日増しに増える敵軍と相対させるのは、完璧な策とは言えない。撤退すべきである」と述べ、元軍は撤退することに決したとされる。危険な夜間の撤退を強行した元軍はその撤退道中に暴風雨に遭い、朝鮮半島の合浦に帰還した時には、13,500 人余りの不帰還者を出していた。

第二回目の弘安の役では、元軍は日本軍の猛攻（志賀島の戦い・壱岐島の戦い・鷹島沖海戦）で苦戦を強いられ、二ヵ月近く海上に停滞していたまま台風に遭い、大損害を出して混乱したところを日本軍の総攻撃を受けて、壊滅した（御厨海上合戦・鷹島掃討戦）。

元軍の捕虜は 2～3 万人にも達した。

5. 3. 3 第二次世界大戦の神風特攻隊

神風特別攻撃隊は第二次世界大戦末期に行われた大日本帝国海軍の航空機による特別攻撃隊である。大日本帝国陸軍航空機による陸軍特別攻撃隊は含まれない。

1944 年 10 月 20 日に最初の編成があり、1945 年 8 月 15 日の終戦まで続けられた。

「しんぷう」が正式な読み方であるとされる。「神風特別攻撃隊」の名称は、命名者の猪口力平中佐によれば、大西中将が特攻隊を提案した 10 月 19 日の晩、201 空副長玉井浅一中佐と相談して「神風を吹かせなければならん」と言って決め、大西中将に採用されたものであるという。

特別攻撃隊は生還の見込みが通常よりも低い決死の攻撃、もしくは戦死を前提とする必死の攻撃を行う攻撃隊である。略称は特攻隊。攻撃自体を指す特別攻撃とその略称の特攻も合わせて紹介する。語源は太平洋戦争の緒戦に日本海軍によって編成された特殊潜航艇「甲標的」の部隊に命名された「特別攻撃隊」の造語からである。

同戦争の末期には、爆弾や爆薬等を搭載した軍用機、高速艇、潜水艇等の各種兵器もしくは専用の特攻兵器を使用して体当たりし自爆するといった戦死を前提（後者）とするものが中心となった。

5. 3. 4 神風特攻隊への評価

戦争から七十年たった今も、神風特攻隊に対する意見は割れたままである。元隊員の間でさえ、特攻への評価に温度差がある。割れている理由のひとつには、その歴史が政治手段として繰り返し使われてきたことがある。「勇敢なヒーローたち、彼らは祖国に殉じたのだ！勇敢な神風パイロットたちだ！」という積極的な評価をよく聞く。一方、ほ

とんどが 17～24 歳だった特攻隊の全員が当時、国のために死にたいと心から思ったのだろうか。現在 90 代の数少ない生存者二人に話を聞いたところ、答えは否定的だった。

「六分か七分は天皇陛下のためにと思っただろう。あとは、なぜやらないといけないのだろうと疑問を持った人も多いんじゃないか」山田敏さん（94）は名古屋の自宅でこう話している。山田さんは自身が出撃する前に、終戦を迎えた。「私は当時はまだ独身で何にもないもんだから、純真に日本の国のためにとということと、やっぱり日本を守らなきゃいかんという意味があったが、もし、おそらく、妻帯しているとか、いろいろ苦勞した人は考えが違ったかもしれない。やっぱり何で女房、子どもがいるのに自分は今から行かなくてはならんのだって、そういう気持ちを抱いたんじゃないのか」。

5. 3. 5 執筆者からの観点

人間の命は何より大事である。この何より大事なこの命を捧げる行為がこの世の中にあるということを、特攻の勇士達は教えてくれたのである。

日本の若者は実に敢然とこれをやってのけていた。

特攻の行為の本質は「自己中心的な生き方を越えて、他を生かす」ということにあると考える。

日本は他のどこよりも「自利をこえて、他を生かす利他の心」が強く生きてきた国である。今回の調査を通して、そのことを感じる事ができてただただ感動した。

6. ベトナム料理店「サイゴン」の訪問

ゼミでは、外国料理を提供する長岡市の飲食店を調査する活動を行った。その経営者の多くは在日外国人の方であり、私たちは彼らの、外国の食文化を日本に浸透させようという意思に目を向けその活動に触れてきた。私たちのゼミにはそういった意思を持った人々の思いを知ること、国際的視点を持つ上での刺激を得たいという意図があった。

ベトナム料理店「サイゴン」を訪れた際に、外国から生活拠点を日本に移す人々から学ぶには、やはり自国ベトナムについての基本的な知識を把握しておく必要があると考えた。したがって、報告書ではベトナム自体の文化を中心に据え、「サイゴン」訪問を通じて得た学びを活動報告とする。

6. 1 ベトナムの現状

近年、ベトナムに関する情報が世界中に広く知られてきた。国際連合や WTO などのような国際的な政治と経済活動に積極的に参加している。特に、2018 年にはベトナムは大切な一里塚を建造していて、そこから世界中の友達の心に良い印象を与えている。

例えばスポーツの上で、ベトナムのチームは徐々に強くなっていて、国際的な試合にベトナム人だけではなく、隣国の人々も熱心に応援していた。

色々な世界からの注目されている試合に参加していて、この間東南アジアの「AFF スズキカップ」という試合において、結果として優勝をおさめた。

また、ビューティーコンテストの中にはベトナムの代表人は高い位置が取れていて、世界中にベトナムの女の美容をもっと表示していた。

2018 年 12 月に「ミス・ユニバース」にベトナムの代表はトップ 5 に入るという優れた功績を残した。

この順位を取れるベトナム人代表がこれまでいなかっただけに自国にとって、多くの注目を集めることとなった。以上によって、ベトナムのことは世界中の人々に愛されてきて

いることが調べて感じたことである。異国のことを研究するとき、料理文化について調べることは当たり前だろうか。

6. 2 ベトナム料理店「サイゴン」の訪問

店 名：サイゴン

住 所：長岡市四郎丸 4-11-3

営業時間：午前 11 時から午後 2 時半と午後 5 時から 9 時まで。

6. 2. 1 「サイゴン」の開店した背景

ベトナムの料理といえば、日本人だけではなく、世界中のみんなはほとんど「フォー」という料理しか考えないのではないだろうか。しかし、「フォー」以外にも様々な美味しい料理があり、さらにそれらは国内における地方によってその料理は異なる味を持っている。

ホーチミン出身の小西エンさんは「いつか生まれの国のお料理を振るまうお店を開く」という夢を抱いて、長岡市に「サイゴン」というベトナム風の料理店を開店した。

2005 年に来日し、日本人男性と結婚したエンさんは子供頃から料理を作るのが好きで、日本で料理店を開くのが夢だった。

長岡市に引っ越し、子供が小学校になった去年、一念発起して店を持った。家庭で料理を作りながら、ふるさとの風味を生かし、「ベトナムで食べられている料理をそのままの味で」をモットーにしている。お店ではベトナム語が飛び交う様子とベトナム音楽は、まるでベトナムで自分の家族と一緒に過ごしているような気分させてくれる。

日本人の客入りは未だ多くないようで、店員の方が日本語のコミュニケーションが発達途上であることもあり、日本人客は指差しで注文した方がよさそうである。



—サイゴン—



—サイゴンの店内—

6. 2. 2 ベトナム料理の普及

小西さんが務めるのは断面が円形の米粉麺「ブン」である。現地では「フォー」よりも広く一般的に食べられているという。「ブン・ボー・フエ」(図12)は牛の骨から取っただしや生姜から作ったスープを「ブン」と混ぜ、牛肉を混ぜる。白色の「ブン」を口に運ぶと、「フォー」よりももちもちとした食感がしてスープの味がよくしみ込んでいた。生姜の風味がじんわりと広がり、体が温くなる。

「生春巻き」には味噌を基本にした特製ソースがつけて頂く。現地では、発酵した豆腐で作ったソースがよく使われていることから、「日本の味噌でも美味しくなりそう」という小西さんの発酵で生まれたものである。寒い天気やミルクを混ぜた「チェー」などデザートも充実している。小西さんは「美味しい料理を頑張って作ってる」と充実感をにじませた。

6. 2. 3 ベトナム料理の特徴

現在、ベトナム料理は最も豊かで多様な料理の一つとして評価されている。その多様性と豊かさは、地理的な場所、新鮮な原材料、さまざまな加工方法を由来とし表現されている。スコットランド出身でロンドンにミシュランの星を獲得したレストランを複数店持つシェフ、ゴードン・ラムゼイ(Gordon Ramsay)は、「ベトナム料理は本当にユニークなので、今までに経験したことのある料理とは比較にならない」と言って驚いた。

ベトナムに来たときは、ベトナム料理の典型的な特徴を楽しめることだろう。料理店「サイゴン」へ来るとき、顧客はベトナム料理のそれを体験する機会を得ることができる。以下の料理はベトナムの料理文化の典型的な代表である。

(1) PHỞ – フォー

フォー(ベトナム語: phở)とは、ベトナム料理の平たい米粉麺で、ベトナムを代表する国民的料理である。ベトナム人にとってソウルフードであり、一日3食フォーで済ませる人もいほど生活に密着している料理である。形は日本のきしめんに類似しているが、原料は米粉と水であり、ライスヌードルの一種である。水に漬けた米を挽いてペースト状にしたものを熱した金属板などの上に薄く流し、多少固まったものを裁断して麺の形状にする。

フォーの起源ははっきりとしていない。フランス統治下の影響で、それまで牛肉を口にしなかったベトナム人が牛肉を食するきっかけが生まれた。語源としては、フランス語の feu (ポトフ *pot-au-feu* のフー) から来た可能性が指摘されている。ベトナム語の phở の発音は、声調以外の部分ではイギリス英語の fur (ファー、毛皮) に近い。

フォーは鶏や牛肉で取った透明のさっぱりダシにきしめんの様な米粉の麺が美味しいベトナム料理である。お肉や、香菜などをのせて頂く。あっさりしていてコレからの暑い季節にもピッタリだ。

ハノイをはじめとするベトナム北部はシンプルな盛り付けが多いものの、ベトナム南部では味付けが甘めであるのが特徴である。

基本のスープは鶏がらベースの透明なスープにヌクナム(魚醤油)や香辛料で味付けしたもの。中には牛骨スープを使用しているお店もある。暖かいあっさりとした味である。スープの中に米の麺を入れ、鳥、豚、牛の肉を上に乗せ香草をちらすのが一般的のフォーがる。

「フォー・ガー」は肉が鶏肉で「フォー・ボー」は肉が牛肉を使用したものをいう。肉が必ず使われているフォーだが、海鮮食品を使用する海鮮フォーも見られるようになった。お店によっては別皿で野菜やモヤシと一緒に提供される場合がある。

(2) BÁNH XÈO – バインセオ

バインセオ(ベトナム語: Bánh xèo)は、日本でベトナム風お好み焼き、西欧でベトナム風クレープなどと呼ばれるベトナム南部の粉物料理である。ベトナム北部ではあまり食べられる習慣はないが、南部では日常的な家庭料理であるためバリエーションが多彩で、中に入れる具も多様である。

基本的なレシピは、米粉とココナッツミルクをベースにした生地をターメリックで黄色く着色し、大きめの専用フライパンで薄皮に焼き上げる。焼けたら豚肉、もやし、海老あるいは鶏肉やキノコ、タマネギなど、好みの具をたっぷりと乗せて二つ折りにし、軽く蒸し焼きにしてさらに油で皮をパリパリに焼く。焼き上がったものに香草(ミント、ドクダミ、紫蘇など)類を添えて風味を付け、一口大にちぎってレタスやサニーレタスなどの葉もの野菜でつつんだものを酢やヌクナム(魚醤)をベースにしたタレ「ヌクチャム」につけて食べる。

(3) CÀ PHÊ – ベトナムのコーヒー文化

ベトナムのコーヒー(ベトナム語: Cà Phê Việt Nam)は、フランスの植民地時代に持ち込まれた文化であるといわれている。

コーヒー生産量は、あの「ブラジル」に続き世界第二位でもあるのだ。全世界のコーヒー総生産量で言うと約20パーセントを占め、ベトナムコーヒーで多用されるロブスター種のみだと約40パーセント(堂々の世界第一位)となり、重要な輸出品目でもある。

コーヒーはフランスから、将棋は中国から入ってきた文化であるという事で、こういったところでも国際的な文化の融合を感じ取る事が出来る。また、お茶の文化が廃れたかというところでもなく、地元のカフェではコーヒーを注文する前に蓮茶がお水代わりに出てくる。ベトナムコーヒーはかなり濃い目であるため、ベトナム人はコーヒーの量が少なくなってくると、その蓮茶をコーヒーに足してかさを増やして飲むことがある。

ベトナムコーヒーの飲み方は特徴的だ。ベトナムコーヒーは、ロブスター種の豆を濃い目に抽出する。飲み方は、ホット・アイス共に、ベトナム式ドリッパー（アルミ製）でゆっくり落とし、好みでコンデンスミルクなどを用いて味を調整できる。

クリームなどでの調整しているのは見かけない。比較的、ハノイを含め、北部の人々より、南部の人々のほうが甘めにする傾向があるようだ。また、コーヒーに付加した飲み物で言うと、卵コーヒー（コーヒー味のミルクセーキみたいなもの）やマンゴーコーヒー（コーヒー味のマンゴージュース）なども独自の味わいがある。

コーヒーは単なる飲み物ではなく、コーヒーはベトナム人の文化となっており、主な輸出品目であり、ベトナムを訪れる観光客が必ず飲んでみよう。フォーやコーヒーは国際の皆は非常に料理の面で高く評価されているベトナムの名物の一つをもつ。ベトナムの料理は世界で広く知られており、ベトナムの料理を楽しむに來る観光客の数量が増えていく可能性は高い。

6. 2. 4 将来的な展望

「サイゴン」は、特に料理についての、ベトナム人と日本人の交流の場として典型的な例であると言える。

ますます多くの顧客が「サイゴン」へベトナム料理を体験し、研究に來ている。この場所は、ベトナム料理と文化を好む人々にとって、理想的な場所になった。

日本にベトナム料理の店を開く願望を以て、エンさんはベトナム人の料理を日本人に紹介することに成功している。

将来的に、エンさんはもっと日本人が「サイゴン」店でベトナム料理を体験に來る環境を作りたいと考えているということだ。

飲食を通じて、ベトナム人と日本人はお互いに容易に交流できると信じているためである。

7. スリランカ料理店「あ〜ゆぼ〜わん」の訪問と隣国インドの学習

長岡市の外国料理店を訪問する活動として、スリランカ料理店「あ〜ゆぼ〜わん」を取り上げる。

こちらも「サイゴン」と同じく開店して年月が経ってなく、2017 年秋に営業をスタートした。

スリランカという国の基礎知識、それを以て店の訪問で受けた刺激や私たち自身への影響の中から地域の発展へのヒント、ゼミとしての成長につながる部分を探っていく。

7. 1 スリランカの基礎知識

7. 1. 1 概要

スリランカの正式名称はスリランカ民主社会主義共和国である。首都はスリ・ジャヤワルダナプラ・コッテであり、港湾都市で旧首都であるコロomboから 1985 年にスリ・ジャヤワルダナプラ・コッテに遷都した（「コロomboとは - コトバンク」を参考）。

人口は約 2,067 万人であり、日本の約六倍である。公用語はシンハラ語とタミル語であり、この二言語で 9 割を占める。旧イギリス領であったため英語も多用する。

面積は 65,607 平方キロメートルであり、日本の二倍弱である。元首はマイトリパーラ・シリセーナ大統領である。

政体は共和制である。民族はシンハラ人が 72.9%、タミル人が 18.0%、スリランカ・ムーア人が 8.0%を占める。（一部地域は含まない）

スリランカの国土を成すセイロン島は、インド亜大陸南東のインド洋上に位置し、西部はアラビア海、東部はベンガル湾に臨む。島の北部は平地が多く、南に下るに従い山地が多くなる。スリランカ最高峰のピドゥルタラーガラ山（標高 2,524 メートル）を中心にした中央山地が南部の大きな面積を占め、これがスリランカの気候風土に多くの影響を及ぼしている。

スリランカの気候は熱帯性の高温多湿で、モンスーン（季節風）の影響を大きく受ける。コロンボを含む南西部は、南西からのモンスーンの影響を受けて、年に二度（4～6 月、10～11 月）の雨季がある。国土の反対側の東部は、北東からのモンスーンの影響により 11 月～3 月に雨季を迎える。北部地域は全体的に降水量が少ない乾燥地帯となっている。

7. 1. 2 スリランカの国旗の知識

スリランカの背景が黄色となっているが、これは仏教の加護を示している。右には緑色とサフラン色を合わせた四角形がある。緑色は少数派であるイスラム教徒のムーア人、サフラン色はヒンドゥー教のタミル人を表す。その右にあるデザインは金のライオンが剣を持っているものであり、剣は王の権威、ライオンはスリランカの大多数の民族であるシンハラ人の祖先であるライオンの血を引いているという神話から出てきている。

1948 年のスリランカという名前の前身セイロン島が独立した際には上記のようになっていた。1972 年には国名がスリランカに変更された。その際には仏教徒が大多数ということで 4 枚の菩提樹の葉が付加された。1978 年にそれが公式にスリランカの現在の国旗となった。

7. 2 長岡市のスリランカ料理店「あ～ゆぼ～わん」

店 名：あ～ゆぼ～わん

住 所：新潟県長岡市北山 3-34-1

営業時間：[月・水～金] 午前 11 時半～2 時

[土・日] 午前 11～午後 3 時

火曜定休、他不定休あり

7. 2. 1 お店訪問までの経緯

平成 30 年 11 月 22 日、私たちは長岡市にあるスリランカ料理店「あ～ゆぼ～わん」を訪問した。それは本学の地域活性化プログラムに所属し、地域での外国の方たちが行われている何らかの経済活動に関与したかったということが、当ゼミの共通認識であったからである。

ではなぜ訪問先が料理店でありスリランカ料理店なのか。私たちはゼミ学生である 1 人の留学生の誕生会として、ベトナム料理店を訪れたという経歴がある。

そこからゼミ活動の中に外国人経営の料理店への訪問という活動が一環となったのである。そして平成 29～30 年度のゼミナールにかけてスリランカという国への関与が増え

た背景がある。

平成 29 年度の活動ではフェアトレード商品についての学習を行った。セイロン島がスリランカの全身であることは上記の通りであるが、そこからフェアトレード商品に『セイロン紅茶』というスリランカ製の商品があったという記憶が蘇ってくる。

次に学園祭ではスリランカ製のフェアトレード商品『カレーの壺』使ってカレーの創作販売を行ったが、そこでスリランカ製のカレースパイスの味の違いが学生たちの話題にあがるようになった。そして過去には当ゼミの講義にスリランカの外部講師を招いたことがあった。

さらにそのスリランカ料理店の店主であるナヤニさんとゼミナールの教授がゼミナール活動における知り合いであったことから、教授から料理店への訪問の提案を受け、その料理店を訪問することになった。

7. 2. 2 お店の訪問

夫婦経営でありお店に訪問した際はナヤニさんという女性の方から料理を振る舞ってもらった。店内の壁に大きなスリランカの国旗が貼られていた。

そこで国旗の意味を説明していただいた。私たちはスパイスが香り高いカレーと一緒にパラタをいただいた。

パラタとは小麦粉の生地を何度も織り込んだ粉物料理である。ナヤニさんは、スリランカではインドのナンとは異なりバターを入れると教えて下さった。それは確かに、ナンと違いバターの香りが感じられ、しっとりとした食べやすい食感のナンであった。

お店の名前である『アーユボーワン』とはスリランカの挨拶であり、「長生きしてまた元気にお会いしましょう」という意味を持つという。

このお店はスリランカの家庭料理のほか、プロフィール画像には『アーユルヴェーダ料理』と記されている。

アーユルヴェーダとは、「生命の科学」「生命の知識」を意味するインド・スリランカの伝統医学のことである。

発祥はインドとされ、5000 年以上も昔から続き、人がより自然の在り様に近い食事療法を行う健康に良い食材を時間や自然環境・季節などを考慮し食事療法に活かすような養生法や治療法、また薬草学である。



—スリランカの「パラタ」の料理—

7. 2. 3 ナヤニさんから開店時の思いを聞いて

店の所在地の近隣には住宅と商業施設が並び、中規模の経済規模と見られる街の中にある。しかし店主のナヤニさんは、それよりも「閑静で田畑が周りにある環境で出店がしたいと思っていた」と語っていた。自らで農作物を育て、それらを自身の料理店で提供する活動を望んでいたということである。

ゼミ生は、店を訪れる前には、現在の場所より長岡駅の近くなど人の動きが盛んにある場所を望んでいたのではないかと想像していた。

しかし実際の思いは真逆であった。それを考えると、個人店を経営する上で十分な収益を確実に得る必要があるとしても、必ずしも人通りが多く客を呼び込まなくともある程度の売上が見込める場所に店を構える必要ないと考えた。

ナヤニさんのように、収益以前に、可能な限り自給自足での経営を目指したり、緑豊かな環境で仕事をしたりするという「こだわり」が非常に重要な要素であると考えられることもできる。

7. 3 インド

スリランカ料理店「あ〜ゆぼ〜わん」を紹介した。店主ナヤニさんの故郷スリランカは、隣国インドの影響を、過去も現代も多大に受けている。

そのため、ゼミではインドの成り立ちや社会についても触れることにより国家間の関係を理解することを助けると判断し、この報告書にもその調査内容をまとめた。

7. 3. 1 概要

インドは南アジアにある国で、首都はニューデリー。人口は12億1,057万人(2011年国

勢調査)、人口増加率は 17.68 パーセントになり、将来は人口世界一になるといわれている。

民族はインド・アーリア族、ドラビダ族、モンゴロイド族などがいる。言語は連邦公用語がヒンディー語、他にもベンガル語、タミル語など二十一もの言語がある。また、英語も話されている。

宗教はヒンドゥー教が大半を占めるが、イスラム教徒やキリスト教徒、シク教徒などもある。ヒンドゥー教のイメージが強いが他の宗教も信仰されている。識字率は 73 パーセントとなる。

7. 3. 2 歴史

ーインド史概略ー

紀元前 2300 年頃～紀元前 1800 年頃	インダス川流域にインダス文明がおこり、都市ができる。
紀元前 1500 年頃	ヴァルナ制（現在のカースト制）ができる。
紀元前 500 年代	シャカが誕生する。八正道を唱え、クシャトリア（戦士や貴族）、ヴァイシャ（農民、商人）らの階級に多く支持される。
紀元前 317 年頃	マウリア朝の成立と共にインドが統一される。 創始者は Chandragupta。 西北インド、アフガニスタンにまで勢力を拡大。
紀元前 300 年代半ば	アショーカ王がマウリア朝の全盛期を築く。 インド南端を除く全てのインドを統一。
1 世紀～3 世紀	クジャーナ朝が成立。 東の中国と西ローマ帝国との東西貿易で繁栄する。
3 世紀	Chandragupta 1 世によってグプタ朝が成立
7 世紀	Harsha Vardhana によってヴァルダナ朝が成立。
16 世紀	ムガル帝国の成立

19 世紀	英領インド帝国が成立。民族運動がさかんになる。マハトマ・ガンジーが民族運動・労働運動などを指導する。非暴力・非服従を唱える。
1947 年	イギリスから独立
1952 年	日印国交樹立。 第 1 回総選挙
1998 年	インド人民党 (BJP) を中心とする連立政権成立
2004 年	コングレス党を第一党とする連立政権成立
2014 年	インド人民党 (BJP) 政権成立

インドの始まりは、インダス文明の発生である。また、イギリスに支配されるまでは繁栄と衰退を繰り返している。現代のインドでは、コングレス党の支持が根強いことが分かる。

7. 3. 3 食文化

インド料理は多彩なスパイスをよく使うのが特徴である。地域によっても特徴が異なり、特に北インドと南インドでは味などの特徴も全く違う。

北インド料理は、イスラム文化圏の影響が強いムガル帝国の宮廷料理と元々の北インドの食文化が合体により誕生したといわれている。

主食としてナンやチャパティ、ロティなどが食されている。ナンは日本のインド料理店ではよく食べられているが、インド本国では高級食材である。

インドの庶民料理としてはチャパティ、ロティが一般的である。また、ダヒー(ヨーグルト)、パニール(チーズ)、ギー(澄ましバター)などの多くの乳製品が使用される。

スパイスは、クミン、コリアンダー、シナモン、カルダモンなどがよく使われる傾向にある。

米は長粒種のインディカ種の米、バースマティール種の米が好まれる。これはムスリム(イスラム教徒)の影響が強いと言われている。

ちなみに、日本及び海外で出店されるインド料理レストランの多くは、北インド料理が中心になっている。

南インド料理は、北インドと比べて「菜食主義者(ベジタリアン)」が多いためか、肉類の代わりに野菜や魚中心の料理が多い。北インド料理とは調理法が異なることも多い。

北インド料理では、乳製品の使用が多いが南インド料理ではココナッツミルクを使う料理が多い。またスパイスも北インドで使われるクミンを使う時は、南インドでは黒からし

の種やカレーリーフを使うといった習慣がある。

米も、北インドでは長粒種のインディカ種が使われるが、南インドでは日本でも食べられるジャポニカ種に似た種類の米が使われる。しかし、食感は粘り気がなく、インディカ種の米のようにぱさぱさした食感である。

味付けも、北インドよりもあっさりとしている。盛り付けは、北インドでは金属の皿に盛られるが、南インドでは清めたバナナの葉に盛られる。食文化でも、北と南の文化の違いが分かる。

北は内陸部でイスラム圏との距離が近いのでイスラムの食文化が根強く残っているが、南インドは海に面しているために自然の素材を生かしたものが多い。このような点で、歴史的・地理的な違いから生まれる食文化の相違もうかがえる。

7. 3. 4 政治・経済

インドの政治体制は共和制で、元首はラーム・ナート・コヴィンド大統領、首相はナレンドラ・モディ、外相はスシュマラ・スワラージが現在務めている。

議会は二院制。政党は कांग्रेस党、インド人民党などがある。外交は近年、アメリカ、日本との関係を積極的に強化させている。中国との関係も急速に発展している。今後、外交の強化とともに国の発展も進むと思われる。

経済に関しては、まず主要産業は農業、工業、鉱業、IT 産業となる。農業では米、小麦の生産が盛んになっている。

工業に関しては、海外企業が多くインドに来ている。鉱業は亜鉛、鉛などの資源がよく採れる。工業は多くの会社が進出している。インドは、資源が豊富なので部品の素材が採れるからである。

IT 産業は近年急速に発展しており、IT 系企業ではカースト制度に関係なく、能力に応じて就職・昇進できるところが多くなっている。貧困から脱するために、IT を学んで IT 企業に就職するインド人も増えてくる可能性もある。

海外へ就職する人も多く、アメリカやヨーロッパなどの企業ではインド人技術者を雇う企業が増えてきている。なぜなら、インド人は英語力と IT 技術に精通しており、人件費も安く済むからである。

名目 GDP は 2017 年現在、2 兆 5,974 億ドルとなっている。一人当たり GDP は 1,939 ドルとなっている。これも産業の成長などで今後伸びる傾向にある。

著しい経済成長で現在のインドのカースト制度も経済発展によって将来崩壊する可能性がある。カースト制の最下層から這い上がって成功した人も出ており、今後増えていく可能性がある。実際、インド出身の人で CEO や政治家などのエリートとして世界で活躍している人も多い。しかし、経済成長とともに人口流出で国内産業の衰退が懸念される。留学する人や海外の会社に就職する人が増えることが原因の一つになっている。この事実と原因をふまえて、国内産業の育成・活性化も必要であることが挙げられる。特に、農業に関しては穀物や香辛料の生産・輸出を積極的にした方が良いと思われる。また、IT 産業は今後、インド国内で起業した会社を増やすことで国内産業の衰退を防げるのではないかと考えた。将来、インドが経済成長して先進国になった場合は国内産業全体をある程度保護

するスタンスに変える必要がある。教育も国内に学校などの教育施設・研究施設を増やすことが人口流出を防ぐ方法として挙げられる。

8. 地域の教会と子ども食堂

8. 1 子ども食堂に関与する活動をするにあたって

厚生労働省の国民生活基礎調査によると、日本は米国、中国に次ぐ世界第3位の経済大国でありながら、七人に一人が貧困にあえぎ、母と子のひとり親世帯では半数以上が貧困に苦しむ。

日本は先進国の中で、「貧困率」の高い国のひとつとして知られている。なぜ豊かな日本で貧困率が高いのか。子どもの貧困問題は将来の日本に大きな影響をもたらす。七人に一人と言われる子どもの貧困問題は教育機会の喪失につながり、将来的に大きな損失になる。

子どもが貧困にあえぐ最大の原因は、言うまでもなくその親の収入の低さである。日本の「標準世帯」とされ、夫が働き収入を得て妻は専業主婦かつ子どもが2人いる4人世帯は日本の総世帯数の5パーセントにも満たず、また家族の集団性も低下している。

「近代家族」では、性別役割分業のもと女性は専業主婦となり、家事・育児を専門に行うことが規範化されていた。

専業主婦は一日中の時間配分を子どものために分け使い、精神と体力でも消耗する。

他方、日本特有の「ワーキングプア」と呼ばれる労働環境の悪さが背景にある。日本では、母親が一人で子育てに奔走しながら仕事を続ける場合、まず正規社員では雇ってもらえない。パートタイマーやアルバイトによって生計を維持していく必要があり、収入はどんなに働いても低い場合が多い。

また、近年離婚率が上昇して、両親が離婚した未成年の子ども数も増加している。このように家族形態が変化する中で、親との死別も含め、ひとり親家庭への支援ニーズが高まっている。

子ども食堂といった方法では、いまや抜本的な解決にはなっていない。低所得にあえぐひとり親家庭に対して、いまずぐ公的な支援が必要になると考える。

だが、子どもたち自身にも“食”や“栄養”の重要性を理解してもらうことが大切であると考え、食生活は家庭や子ども個々の問題として見過ごすことなく、社会全体の問題として地域による取り組みが重要だと筆者は捉えている。

地域自治体や民間の組織でも、子ども食堂に注力すべきである。その結果として、親が忙しくても一日三食を食べる習慣をつけて、元気に登校する子どもが増えることを期待する。

日本では、地域の子どもの無料か安価で食事を提供する「子ども食堂」が、全国に2,286ヵ所あることがわかった。地域交流の場として認知度が上がったことに加え、「子どもの見守りの場」として期待する自治体からの補助金が開設を後押ししている。

2016年5月に朝日新聞が各地の子ども食堂のネットワークや団体に聞き取って集計し

た時は 319 ヲ所であった。手法は異なるが、単純比較で 2 年弱で 7 倍超となった。

2018 年の秋に、長岡聖契キリスト教会の武士俣優さんを、ゼミに招き、地域の子ども食堂について、話を伺い、ゼミ生は学習していった。

ゼミ生は、地域の教会が、様々な事情により自宅で昼食をとるのが難しい子どもたちに、毎月 1 回「子どもみらい食堂」を開催し、昼食を提供していることを知った。食材の大半はフードバンクや個人から無料で分けてもらい、調理ボランティアが調理するという。子どもは一食 100 円、大人は 300 円代金としている。

ゼミ学生が、子ども未来食堂を訪れた際、子育てを頑張っている親御さんから、事情があつて昼食準備の時間がとれず「とても助かった」という声を聞いた。

子どもたちにとっては、ゲームを遊んだり唄を歌ったり、新しい友達を作る場にもなっているという。

誰でも利用できるようにすることで、「貧困の子どもが行く食堂」という印象が薄まり、地域交流や子どもを見守る環境が生まれやすくなる。

今後、日本の子ども食堂のような活動をさらに広げていくべきであるのか私たちは考えた。

8. 2 キリスト教会と子ども食堂

8. 2. 1 キリスト教はなぜ日本で広まるか？

(1) キリスト教とは

そもそもキリスト教とは何か？この問いの背後には、かつてイエス・キリスト自身が弟子たちに投げかけた問い〈人々はわたしを何者だと言っているか……あなたたちは、わたしを何者だというのか？〉が潜んでいる。この後者に答えることが、前者に対する根本的な答えとなるのである。

キリスト教は、イエスを救世主として信じる宗教である。キリストとは、「油を注がれた者」という意味のヘブライ語「メシア」のギリシャ語訳で、「救世主」を指します。

イエスを救済者キリストと信じ、イエスの行動と教えを中心に神の愛と罪の赦しを説き、旧・新両聖書に基づき個人と社会の再生を促す宗教である。

パレスチナにおこり、ローマ帝国の国教となり、さらに世界各地に広まった。

(2) キリスト教成立の背景を見る

西暦はイエスの誕生から始まる。しかし、イエスの生まれたのは、紀元前 7 年から紀元後 1 年の間ぐらいであると言えない。

イエスは敬虔なユダヤ教徒の家に生まれ育った。当時一般のユダヤ教徒の間に広まっていた信仰に終末観があった。

イスラエルはすでに前 8 世紀末に北半分がアッシリアに侵略され、前 6 世紀初めには南ユダもバビロニアに滅ぼされて多くのユダヤ人が捕囚の身となり、ペルシアによって解放されたのちも独立国とならず、ギリシャの支配時代に及ぶ。さらにシリアのセレウコス

王朝によるユダヤ教への激しい迫害が影響し、前 2 世紀なかば独立戦争によりハスモン王朝が成立する。しかしふたたび前 63 年にローマの支配下に置かれ、イエスの時代に及ぶ。

元来ユダヤの民は、「神の選民」であるというイスラエル固有の民族信仰をもっている。これが長い異邦の支配下に現実のものとならないことから、ペルシア思想の影響を受けてユダヤ教に取り入れられたのが終末観である。

悪のこの世界が終わり、神自身の支配、神の国の到来が待望された。このとき終末の審判があり、死者も復活して、義しいユダヤ教徒がこの国の民となる。この神の国をもたらし、その王となるのがメシアである。

(3) イエス・キリスト——キリスト教の成立を見る

イエスの活動は福音と自他ともによばれた。神の国の幸福の音信を人々にもたらず働きである。

イエスの教えの中心は愛である。

「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くしてあなたの神を愛せよ。自分を愛するようにあなたの隣人を愛せよ」(『マタイ伝福音書』22 章 37～39。『ルカ伝福音書』10 章 27)。

この二つの愛に、イエスの神観、人間観のすべてが要約されている。当時神の国の到来を切望するユダヤ教徒にとって、最後の審判で「義」とされ、神の国に入る資格を得ることが最大の課題であった。ユダヤ教はこの資格を明確に律法によって規定した。「義」の神の前に義とされる人間は、律法を厳格に守る者でなければならない。指導者たる律法学者、パリサイ派は、全国の会堂で預言書と律法を教え、神の国に入る準備をさせていた。

(3) 近代のキリスト教を見る

プロテスタントの神学思想が大きな転換をみせたのは、宗教改革の時代ではなく、近代になって、自由主義と科学の進歩によるものである。

アルミニウス主義は、16 世紀にオランダの改革派教会内におこった自由主義運動である。

アルミニウスは、カルバンの人間の墮罪と救済予定説に反対して、人間の自由意志の尊重と、神の普遍的な救済を主張した。

18 世紀なかばイギリスに設立されたユニバーサリストは、この流れのうえにたち、アメリカに渡って一教派を形成した。

(4) 日本のキリスト教の歴史

16 世紀以来、キリスト教は日本の社会、文化に深い影響を及ぼしてきた。

日本におけるキリスト教宣教の開始は、1549 年にカトリック・イエズス会士のフランシスコ・ザビエルの来日から始まる。

それ以前にもポルトガルの貿易船が入港した豊後で、若年の大友宗麟がキリスト教に

触れるなど前触れはあった。

やがてザビエルによる日本の文化と価値観を尊重する宣教方針によって、日本への宣教は成功を見る。

ザビエル自身は日本に大きな影響を与えていた中国の福音化を夢見て 1551 年に日本を後にするが、日本宣教のために次々と来日するイエズス会宣教師と、同胞のため立ち上がる日本人修道士たちの働きで約半世紀後にはクリスチャン人口は全日本人の 1 割を越えていた。

近年では、イベリア半島で大迫害を経験したユダヤ人がイエズス会士として来日し、宣教の一端を担っていたことが明らかにされている。南蛮医師として広く知られるルイス・デ・アルメイダはその代表だろう。

当時の日本では地域を治めていた領主たちとの良い関係を築くことが布教を許可され安全が維持される上でのカギであった。

そのため戦国大名や武将の多くがクリスチャンとなった。大友宗麟、大村純忠、高山右近、黒田官兵衛、小西行長などがクリスチャン大名として宣教師たちの庇護者として振る舞い、そこから親族、家臣、領民に福音が拡大していった。

1582 年には四人の少年たちがスペイン、ローマへ派遣されて歓迎を受け(天正遣欧少年使節)、ヨーロッパでの日本への関心は一気に高まった。

しかし彼らの帰国と時を同じくして九州のクリスチャンの両雄であった大友宗麟、大村純忠が相次いで帰天。

クリスチャンの結束と宣教師たちの持つ武器に危機感を覚えた豊臣秀吉によって宣教師追放令が出された。1596 年にはスペイン船の土佐(高知)漂着に端を発するサン・フェリペ号事件が起き、ついに京都で布教していたフランシスコ会修道士や日本人修道士たち二十六名が長崎で十字架に架けられ処刑された。

以後、徐々にキリスト教弾圧は強くなり、1614 年に出された徳川家康による禁教令によって教会の破壊、宣教師や有力なクリスチャンの海外追放が推進された。

スペイン・ポルトガルとの交流を断つ鎖国政策によって海外からの霊的支援を失い、殉教者を英雄視させないようにと考案された熾烈さを極める拷問を受けて、潜伏していた宣教師や日本のクリスチャンリーダーの多くが信仰を棄てるか、あるいは信仰を守って殉教するかを選択を迫られた。

1637 年に長崎県原城に多くのクリスチャンが立てこもり江戸幕府軍と戦った「島原の乱」によって、キリスト教の禁止と信徒の投獄・処刑は決定的なものとなり、日本全国で調査と検挙、処刑が断行された。

このような絶望的な時代にも、日本人を救いたいという願いで歩いてエルサレム、そしてローマまで行き、司祭になって日本に戻ってきて殉教したペトロ岐部という日本人がいた。

また各地で懸命に信仰を継承していた潜伏クリスチャンたちもいたが、特に長崎に潜伏していたクリスチャンたちの間には「七世代後に再び宣教師たちがやってくる」という預言が伝えられて、その通り幕末の世にカトリック、プロテスタントの宣教師たちが再来日を果たしていた。

また国家レベルでも、奇しくも、フランシスコ・ザビエルが布教活動をした、あるいはそのゆかりの地域から倒幕・維新の雄が立ち上がっていた。

大政奉還に向かうため坂本龍馬が土佐に上陸した地点も、国家的迫害の端緒となった土佐・浦戸湾だった。

明治政府も禁教方針を打ち出しながら結果的に信教の自由を認めざるを得ない方向に時代は動く。多くの殉教者が報われるために、また幕末・明治に注がれた長崎・浦上信徒の存在がきっかけとなり、日本に国家的なあがないの時が訪れた。

明治時代には「国家プロジェクト」としての「学問の推進」によって、多くの宣教師たちが教師として働き、また学校建設を行なった。

その教えを受けた日本人からも新島襄、内村鑑三、新渡戸稲造など著名なクリスチャンが生まれた。

太平洋戦争に向けて日本の教会は国家に利用され、またスパイ容疑で迫害を通る時期もあり、将来に向けて課題も抱えている。

しかしイスラエル建国と同時期に始まった世界的な聖霊傾注を日本の教会も体験し、教団教派の壁を越える「エキュメニカル」の機運も高まっている。

近年世代を越えて顕著な、神を慕い求めるノーリミットの祈りと礼拝の実現は、日本における「異邦人の救い」の時をはっきりと指し示している。今がまさにその時なのである。

8. 2. 2. 子ども食堂が存在する意味は何か？

子ども食堂とは、地域住民や自治体が主体となって無料または低料金で子どもたちに食事を提供するコミュニティの場を指す。

今や全国に150箇所以上も広がる子ども食堂だが、その発祥はどこだったのだろうか。

子ども食堂のはじまりは、日本の社会に隠れた「見えない貧困」を目の当たりにして、東京都大田区にある「気まぐれ八百屋だんだん」の店主であった近藤博子さんが2012年に作ったのが始まりである。

「子ども食堂」を立ち上げたきっかけは朝ごはんや晩ごはんを当たり前食べられない子どもの存在を知ったことだと話されている。

こうして始まった子ども食堂が2016年には全国で319件となり、さらに、2016年から2年間で七倍の2,200カ所を超えた。利用するこどもも、年間延べ100万人を超えているという。

今は子どもやその親、および地域の人々に対し、無料または安価で栄養のある食事や温かな団らんを提供するための日本の社会活動になっている。

子ども食堂の形態は、主催者次第で様々な運営形態があり、参加費（料金）、開催頻度、メニューも食堂ごとに違いがあり、明確な定義があるわけではない。

強いて定義を述べるならば、子ども食堂一号店ともされる東京都大田区の「気まぐれ八百屋だんだん 子ども食堂」では「こどもが一人でも安心して来られる無料または低額の食堂」としており、地域でのネットワークを作ることを目指した全国ツアー「広がれ、

子ども食堂の輪！」ではそれに倣って「(困難を抱える家庭の) 子どものための食堂だけでなく、たとえば高齢者の食事会に子どもが参加している場合なども『子ども食堂』と広くとらえています」と述べられている。

また朝日新聞は「民間発の取り組み。貧困家庭や孤食の子どもに食事を提供し、安心して過ごせる場所として始まった」、東京都豊島区で子ども食堂の運営などに携わる民間団体・豊島子ども WAKUWAKU ネットワークは「安価な料金または無料で、子どもや親子に食事を提供する場」、子ども食堂ネットワークでは「こどもが一人でも利用でき、地域の方たちが無料あるいは少額で食事を提供する場所」としている。

「子ども食堂」とは呼ばれていないものの、地域で子どもの居場所を提供している団体が毎日食事を提供していたり、学習支援のための団体が学習の前後に食事を出したり、高齢者のための集まりの場を子どもや子育て層に開放し、多世代が交流しながら食事をするなど、実質的に子ども食堂と同等の役割を果たしているケースもある。

8. 2. 3 子ども食堂が台頭した理由

子ども食堂が 2012 年にスタートを切り、その活動が短期間に全国に広がったのには理由がある。

一つは、政府が 2009 年に初めて相対的貧困率（世帯所得が標準的所得の半分以下の割合）を公表したことで表面上は見えてこない貧困層の存在が、社会的に認知されるようになったためである。

もう一つの理由は、子どもの貧困層が増加していることが挙げられる。子どもの貧困世帯はひとり親の家庭が半数を占めており、孤食も併せて問題として取り上げられるようになった。

このような子どもの食事難や孤食に対する問題は、親の就職状況や離婚状況が深く関連しているため、根本的解決方法を見つけるのが難しいのが現状だ。

しかしそういった複雑な状況としては捉えずに「難しいことは脇に置いて、とにかく目の前の子どもたちに美味しくて温かいご飯を食べてもらおう」と一石を投じているのが子ども食堂なのである。

8. 2. 4 子ども食堂の意義

現代の日本は、一見食物が豊富にあるように見える。しかし、家族が夜遅くまで働かなくてはならないことや厳しい経済状況などにより、以前のように日本人が家族で食卓を囲み、楽しくご飯と魚や肉類、野菜等の多様な食物を組み合わせる食べる食事を作りたくてもできない家庭が増えてきているのが現状である。

「健全な食事」を保障することは、成長期にある子どもの心身の発育にとって重要なだけでなく、大人になってからの健康的な食習慣につながるという意味でも重要だ。

すべての子どもに「健全な食事」の機会を保障することは、すべての大人の責任でもあるのではないだろうか。子ども食堂はそうした食事をみんなで一緒に食べたり、作ったりする体験を子どもに提供している。また、子どもにとっては大切な居場所の一つであり、保護者にとっては地域の人と繋がる場でもあります。

食を通して、社会全体で子どもを健全に育てることを「見える化」した市民の挑戦と言えるだろう。

8. 3 長岡市内の子ども食堂

8. 3. 1 長岡聖契キリスト教会

長岡聖契キリスト教会は 1950 年に建造された。最初の宣教師はアメリカから来た。当教会は、日本聖契キリスト教団に属する、正統的なプロテスタント教会である。

聖書を信じ、キリストの命にあふれ、聖霊の導きによって教会が建て上げられた。初期の教会の一つが当時の新潟大学の近くにあったので、大学生や大学教授、医者など、職業や年齢を問わずたくさんの方が教会を訪れていた。

初期の教会はテント教会だ。皆でテントに集まって、礼拝するのである。このあとは、このような礼拝堂が建設された。



—長岡聖契キリスト教会—

初めの教会建設から 70 年以上が経つ。この新たな教会を通して、長岡市の経済発展も見えてくるであろう。

8. 3. 2 長岡市における子ども食堂

長岡市内では、食事の提供を通じて、子どもや保護者の居場所となる「子ども食堂」の取り組みが広がりつつある。

長岡市の子ども食堂は、子どもや保護者の居場所となるとともに、保護者の孤立感や負担感を軽減する場、地域の大人たちが子どもを見守る場としての機能がある。そして、長岡市は子ども食堂への支援として、随時、市民を対象とした情報交換会を開催し、最新

情報の提供や関係機関との連携のサポートを行っている。

長岡市内の子ども食堂の基本情報は以下です。

名称	しろうまる食堂
場所	四郎丸コミュニティセンター
開催日時	概ね第二金曜 16：00～（予定）
利用者	どなたでも
参加費	子ども 100 円、大人 300 円

名称	新町みんな食堂
場所	蔵王地区集会所（金峯神社社務所隣）
開催日時	第三金曜 17：00～
利用者	どなたでも
参加費	100 円

名称	銀河食堂
場所	多機能こどもセンター銀河（宮内小学校前）
開催日時	第二土曜 10：00～
利用者	どなたでも
参加費	子ども 100 円、大人 300 円

8. 3. 3 子ども食堂でのボランティア参加

長岡聖契キリスト教会どもみらい食堂は、2018年9月から準備やプレオープンといった段階を踏みながら活動をスタートした。

私たちはこどもたちのため、そして子ども食堂の存在意義を知るべくボランティア活動に参加した。

「子どもみらい食堂」は、長岡聖契キリスト教会が運営。長岡市中央図書館そばにおいて、毎月第4土曜日、地域に住む方々の子育て支援の一環として、食育推進、子どもたちの孤食支援や虐待防止や学習支援、そして皆で食事をし、リラックスできる居場所として始まった。子どもがひとりでも親子一緒でも、高齢の方でも誰でも気軽にご参加できる。



ゼミ学生は「学生による地域活性化プログラム」による、子どもたちのためのボランティア活動今後の学習支援の子とも鑑み、長岡市子ども家庭課と共に検討中である。

子どもみらい食堂

みんな～
もちつきにおいで
～♪♪

しあん
だんぱん
みんかこうえん
ちゅうおう
としょかん

コミ
セン
ここ！



➤ **11/24 (土) 11時～1時**
もちつき大会！

こども100えん、おとな300えん
ばしょ としょかんまへのきょうかい
まいつき第4土曜日11:00～1:00やってるよ！

お問い合わせ 090-2236-3153 ひよし
0258-32-8346 きょうかい
おかあさん、おとうさん、おばあちゃん、おじいちゃん、
じれでもさんができます！



—子どもみらい食堂チラシ—

長岡市でも「子ども食堂」が 広がっています！

現在、長岡市内では、食事の提供を通じて、子どもや保護者の居場所となる『子ども食堂』の取り組みが広がっています。

『子ども食堂』は、子どもや保護者の居場所となるとともに、

- 保護者の孤立感や負担感を軽減する場
- 地域の大人たちによる子どもたちを見守る場

としての機能が期待されています。

市内の子ども食堂

名称	住所	運営主体
新町みらい	〒951-8501 長岡市新町	NPO法人みらい
緑町子ども食堂	〒951-8502 長岡市緑町	NPO法人みらい
子ども食堂 (9/23)	〒951-8503 長岡市中央	NPO法人みらい
しろうみ	〒951-8504 長岡市白根	NPO法人みらい



一緒に運営に携わるボランティアも募集しています！

長岡市教育委員会では、『子ども食堂』への支援として、随時、市民を対象とした情報交換会を開催し、最新情報の提供や関係機関との連携のサポートを行っています。

また、『子ども食堂』を実際にやってみたい方や、『子ども食堂』の取り組みに協力したい方などへの相談も行っていますので、お気軽にお問い合わせください。

長岡市教育委員会子ども未来部子ども家庭課

TEL: 0258-39-2300 FAX: 0258-39-2605 メール: kodomo@city.nagaoka.lg.jp

—子ども食堂広告—

8. 4 経営学による資源分析

8. 4. 1 経営の三要素「ヒト・モノ・カネ」

一般的に「経営の三要素」とよくコンサルタントなどが言うのは「ヒト・モノ・カネ」である。近年ではこれに情報を加えて「経営の四要素」と言う。

しかしながら「ヒト・モノ・カネ・情報」は全てを自前でそろえる必要はないのである。組織には、必ず強みと弱みがある。そのうち強みを生かし、弱みは外部から補ってもらうことが経営では大事なのである。

そこで「子ども食堂」を始めるとき「経営の四要素」を組織内部で賄うか、外部に委託してしまうかを軸に考えてみたい。

「快適な場所」と「おいしい食事」、これらがそろって「子ども食堂」なのである。

8. 4. 2 ヒトの要素

(1) 組織の内部で行う場合

まず「子ども食堂」を定期的で開催しようと思ったならば、その経験を積むべきである。

食材の管理、調理スキル、人材管理など、実際にワークは多岐にわたる。例えば二週間に一度や少なくとも一ヵ月一回の開催を想定する。

(2) 組織の外部で行う場合

教会の教徒は経営のある人材を仲間に引き入れる。アドバイスを得られ、やるべき仕事クリアになってくるはずである。

経験を積む場合は、定期開催は一度あきらめた方がよい。そうしないと「子ども食堂」を経営するのが難しくなってくると思われる。

8. 4. 3 モノの要素

(1) 組織の内部で行う場合

調理する施設を確保するのは容易なことではない。理想は飲食店の厨房施設の使用権を得ることですが、公民館などにも調理施設の整った場所が存在する。

他にも宗教関連の施設は大規模な飲食などを提供するための空間を持っていることがあり、たとえば長岡市内の「子どもみらい食堂」のチラシを見ると長岡聖契キリスト教会で開催とあります。

宗教施設と「子ども食堂」はいろいろと相性が良いので、人脈があるならば色々と伝手を使ってみるべきである。

(2) 組織の外部で行う場合

まずは食品衛生の問題がある。食材をもらうのは地域連携のフードバンクから、金銭を取らない形式になるのが一般的だ。教会にある調理場で調理したものを提供する。

それゆえ、いっそのこと食材は外部で調達してしまうという手段もある。費用は高く

なってしまうが、参加人数を絞ればその方が運営上で都合が良いという場合も多いはずである。

何より調理施設を借りなくて良いので、自由に場所を移動できるようになる。

8. 4. 4 カネの要素

(1) 組織の内部で行う場合

食材費や人権費・謝礼（ボランティアなど自発的に参加を募る場合も考慮する。）や、「子ども食堂」を開催する場所を開く費用などを計算し、何人の参加者が来ればそれを回収できるかを綿密に計算できるスキルが必要である。

また基本レベルで良いので簿記の知識が必要になる。

想定外の出費が多くなる可能性はあるが、慈善事業だからと言っても採算ラインをまめに設定して、収入計画の範囲内で資金を使う。

(2) 組織の外部で行う場合

子ども食堂の経営では赤字を見込んで外部から資金調達をするという手段も考えられる。实际的に考えると、例えば食材費に1万円、それと食材の寄付があれば30食作っても相当の余裕が出るはずである。

子ども食堂は慈善事業としてある程度の認知がなされている。継続的に活動していけば、集められる可能性は十分にある。

8. 4. 4 情報の要素

(1) 組織の内部で行う場合

まずは広報に関する能力の有無がポイントとなる。SNS を使った呼び込みや活動報告はもちろんのこと、チラシを作成したりするのも PC がないとやっていけません。

他の「子ども食堂」の経験者との情報交換にも基礎的な PC 操作は必須のスキルとなるだろう。

ところが、ボランティアの主力であろう「母親世代」の方たちには、PC スキルがあまりない方もいらっしゃいます。

PC スキルのレベルアップが、課題である場合、地域の大学生の役割も大きい。

(2) 組織の外部で行う場合

それゆえ、広報活動はいつそのこと外部に委託してしまうという手段もあります。チラシを撒く代わりにタウン情報誌に掲載してもらったり、行政の発行する広報誌に載せてもらったり、ラジオ放送局情報を放送されるという手段があります。

Facebook は若者が最も使われるアプリなので、教会と子ども食堂に関するメディア、写真、定期開催するイベントが含む文章などのことを積極的に宣伝する。

そこで、多くの物資的支援やボランティアスタッフを募集可能になり、マーケット対象、あるいは子ども連れの親たちが誘われる。Twitter と line も主催者の手で行うべきである。

そして情報の活用ですが、コンサルタントに協力してもらうのも有効な手段である経営コンサルタントの他にも地域活性化を請け負うコンサルタントもいる。

また身近に似た活動を行っている人物がいれば、その主催者の協力で共同運営もよい手段だ。

8. 5 日本で子ども食堂が広がるためには

政府からもらう補助金は不可欠だが、外部からの賛助も重要だと執筆者は考える。

情報化時代の今は、マスコミュニケーション全般とテレビ・ラジオ、新聞・雑誌、出版、広告、インターネットといった各マスメディアで、社会における役割や影響力を与えられて、子ども食堂に関する内容を積極的に広報することも必要である。

地域自治体や民間組織などは、人に注目されるため定期的にイベントを開催するべきである。有能な人材かボランティアを募集して、大衆の力を集めることができる。

8. 6 まとめ

子ども食堂は、古い社会関係である町内会や老人会、子ども会などの縛りを飛び越えて、地域のボランティアが互いに緩やかにつながり、多様な種類のつながりを混合しながら、重層的につながりを張り巡らす仕組みをさまざまな形でつくっている。

子ども食堂のようなボランタリーな共同体家族は、これまでの標準的な家族形態にとって代わるものというよりも、相補的關係として捉えた方がよいだろう。

今後、単身世帯やひとり親家族、ステップファミリーに里親家族、そしてボランタリーな共同体家族など家族の多様化はますます進展すると考えられる。

地域の住民、行政、福祉関係者及び民間のNPOやボランティアなどが、家族形態の多様化に伴う社会の変化について認識を共有しながら、積極的な連携・協力を図ることが重要である。

子ども食堂の効果の理想としては、「子ども食堂の運営に参加したり、関心を持ったりする→子どもの福祉に関心を持つ→子どもの福祉を重視することを政治や行政に対して求める人も多くなる、社会的活動や地域活動に参加する人が多くなる」というプロセスが民衆の意識に浸透することである。

この中で、教会は家や学校ではなく、「地域社会の中にあるかもしれない楽しい集いの場」、「関係のない人どうしが関わり合う『もう一つのわが家』」、こうした社交の場がサードプレイスになる。あらゆる人を受け入れ、近隣住民を団結させる機能を持つ「インフォーマルな公共の集いの場」だ。

場を設けることで、貧困の子どもが発見ができ、早期の支援につながれば」と期待を寄せている。非営利組織として、子ども食堂の運営を地域との連携で進めていき、それが地域社会を再び活気づけることとなる。

9. ファッションの国際化

ゼミでは、世界の多様な事象を学ぶ中で、世界の服装文化についても学習した。人間と

は、表現する存在であり、表現の象徴に、ファッションがある。身に付ける、内在的な人間性、教養、視野、パワーといったものは、もちろん大切であるが、人間のイメージを決定付けるものとしての、外的な要素もまた重要である。

欧州と米国のファッション文化の比較や、世界の伝統的、歴史的な服装など、ゼミ生は、学んだ。

その中で、一つ注目することは、多様化と同時に、同時傾向化を促進する「ファッションの国際化」である。

ファッションの国際化のことを、「グローバルファッション」という。

例えば、「流行色」がファッションの国際化に伴い、世界各国の様々な機関によって、組織的に決定される面がある。

現在、世界のファッション界において、ファッションの世界的な中心地はパリです。毎年春と秋に、ファッションウィークが開催される。通称パリコレである。

多くのブランドがステージや展示会で新作の発表を行います。世界各国のデザイナーがパリに集まる。

いまだ他の都市でも、パリが提供する地位には、およばない。

10. おわりに

ゼミ活動を通して国際文化を学ぶことで、自分たちの知識をさらに拡大することができた。

昔、人類がなぜ争い戦争したのか、どのようにして終戦することが出来たのかなど昔の偉人の名言を見つけその思想を読み解いていく中で私達は人間の未熟さが故に戦争は起こってしまったのだと考えた。

人類は多くの相互不理解を繰り返しながらゆっくりと一体化に向かって進んでいる。

グラスルーツグローバリゼーション。

この取り組みが進んで行われるならば、人類はさらに一体化をすすめることができ、相互理解を深めることが出来ると考える。

今年のゼミナール活動では今までわたしたちがよく知らなかった国の方にお話を伺う機会が多く、そういう意味ではこのゼミナール活動もひとつのグローバル化を促進させる活動だと考えている。

シリアの事をムハンマドさんから聞く中で同じ人類、人間なのに生きている環境が全く異なり、ムハンマドさんの場合、日々生きている中いつどこで誰に自分が狙われているかわからないという強い警戒心をもっているということに驚いた。

自分たちは、普段生きている中で本当に命を落とす危機に直面したことが全くない。ムハンマドさんからお話を聞いて昔からとても過酷な環境で生きてきたのだと考えた。

ロシアのスヴェトラナさんとの交流が切っ掛けになり、ロシアについて学習した。わたしたちが最も驚いたことの一つは、ロシアがナポレオン戦争や、ヒトラー・ドイツから凄まじい侵略を受け、そのたびに、多大な犠牲をはらい跳ね返した歴史をもっていたということである。

このことから、ロシアが世界レベルでも、圧倒する軍事力をいまだに保有する傾向にあ

るのではないかと、考えるようにもなった。

世界には、約200も国があるが、それぞれの国に歴史、過去があり、それが現在をつくっていることを、再認識できた。

スリランカから長岡に在住し、「あ〜ゆぼ〜わん」というスリランカ料理店を出店しているナヤニさんとの交流も勉強になった。

店名の由来である「アーユー」とは、スリランカのことばであり、生命力を意味する。ナヤニさんとの交流で多くのことを習った。スリランカの人々は、国旗に表されているように複数の宗教文化の共生をひとつの目標にしている。

スリランカでは日本のテレビドラマである。「おしん」が人気あることがわかった。粘り強く負けずに進む、主人公おしんにスリランカの人々は心を打たれ感動しているとナヤニさんは語った。

ナヤニさんは日本人がひとつだけとても不幸かもしれないと言う。「お金とモノ」をもっているにも拘らず、日本人はストレスが充満し、どんどん疲れるようになっているのではないかと。

ナヤニさんは日本のひとにやすらかな心をもってほしいという想いでスリランカ料理店を出店した。

ナヤニさんの料理店へ行ったゼミ学生達は、ナヤニさんの心からの笑顔と歓迎の思いに触れ、パラタというスリランカの料理を食べたとき、「これ以上ないというような安らかな心」になったと語った。

その後、ゼミ生は、スリランカに関心を持ちスリランカのことを勉強した。

スリランカは、中国のすすめる大戦略「一帯一路」と米国・日本が提唱する「インド・太平洋戦略」のなかにありとても重要な国であることもわかった。

「サイゴン」というベトナム料理店でベトナムから長岡に在住しているエンさんとの交流も、ベトナムを学ぶ切っ掛けになった。

ベトナムは、王朝の長い歴史をもち、仏教文化、漢字文化があったこともわかった。わたしたちが衝撃をうけたのはベトナムが冷戦時代に一番の被害を受けたということである。

冷戦とは、米ソ超超大国が直接、戦争をしなかったという意味で、冷戦と呼ばれている。しかし、ベトナムでは戦争が起き、熱戦になった。

その時代、ベトナムの平和実現への、世界的連帯が起きたことにも感動した。ラッセル法廷に象徴的なように、世界中で平和運動がおきた。

人類は、ヒューマニズムでまとまったのである。

国際情勢と地域の問題に詳しい長岡聖契キリスト教会の日吉牧師、武士俣牧師との交流も、大きくゼミ生の視野を広げた

子どもの貧困の現状を知り、私たちは大変驚いた。

急速なグローバル化は人々の生活を、バラエティ豊かに刺激的なものにした。人はより自由になり、それぞれの生き方を自分の独自の考えを中心に生きるようになった。

それはもちろん良いことだがその反面、悪影響を及ぼした。

束縛やストレスを嫌い、社会や、人間関係への嫌悪から責任を完全に放棄してしまう大人が少なからずでてきてしまったのである。

子どもを守り育てる場所としての家庭環境の危機や、現状として崩壊すら発生している。働くことができない子供が最大の被害者になっている。

実際、虐待され家庭で食事を与えられず、学校給食しか食べられない子どもが急増しているという現実を知り、ゼミ学生はとてもショックを受けた。

子どもは未来からの使者であり、次の時代を作る。その子どもになんとか夢をあたえたい思いで、子どもが好きなお菓子をとうしてグローバル・リベラル・アーツを子どもでもわかるようにつたえた。

グローバリゼーションの恩恵で、身近に世界の「お菓子」が手に入る環境がある。

フランスのフロランタン、ドイツのバウムクーヘン、ベルギーのワッフル、イギリスのスコーン。これらはいずれもその国・地域が育んできた伝統ある財である。

子どもが集まる、子どもみらい食堂に参加し、お菓子を通じて子どもたちとコミュニケーションを図った。

そこで私たちは、子どもたちに、日本の外の世界を伝えた。

例えば、世界に誇るフランスのパリ、ブルボン王朝、ユゴー、ルーブル美術館などの日本の外の文化や芸術について分かりやすく説明した。

そうした中で、私たち自身だけでなく、さらに後の世代にまで世界の在り方を伝えていくことの意義の大きさを感じた。

グローバルリベラルアーツを拡大する過程でより大きな視点、流れの中で物事を見ることの大切さを知った。

138 億年前にビックバンがおき、物質が発生し地球も誕生した。

地球に水が発生し空気が生まれた。やがて生命が誕生し、人間の歴史が始まり、これからもずっと続いていく。

すべての人間が「宇宙から発生した実在」の流れのなかにあるとすれば、全く平等であり本来的に一体化すべきものである。

人類は 1500 年代の大航海時代、マゼランの世界一周への挑戦に、象徴的なように徐々に繋がり始めた。完成度の高い一体化が実現するかどうかは地域の、集合である世界全体、人類の、アクション次第だと確信している。

謝辞

今年度のゼミ活動に、お力添えして下さいました全ての方に、心より御礼申し上げます。

ゼミのアドバイザーとして、幅広く、ご助言、ご指導くださった、グリーンフィロソフィー大出恭子様、フェアトレードショップ店主若井由佳子様には、特にお世話になりました。

本当にありがとうございました。

長岡大学 学生による地域活性化プログラム 各プロジェクト報告書

1. 長岡の誇れる地域資源を若人に広めよう！
～長岡版「工場の祭典」の開催を～
栗井英大ゼミナール
2. グラスルーツグローバリゼーション
ー草の根・地域からの地球一体化・人類統合の推進ー
広田秀樹ゼミナール
3. 「まちの駅」から地域の魅力を発信し、交流人口の増加に寄与したい！
鯉江康正ゼミナール
4. 酒粕で長岡を盛り上げよう！
ーカスを価値に！ー
権 五景（樂九）ゼミナール（1）
5. 商いを通じて学ぶ会計と経営戦略
～地域に貢献する商品開発を通じて～
平田沙織ゼミナール
6. 十分杯で長岡を盛り上げよう！
ー世界と長岡の繋がりー
権 五景（樂九）ゼミナール（2）
7. 地元企業の働き方を知る
鈴木章浩ゼミナール

平成30年度 学生による地域活性化プログラム 広田秀樹ゼミナール活動報告書

【発行日】 平成31年 3月18日
【発行人】 村山 光博
【発 行】 長岡大学 地域活性化プログラム推進室
〒940-0828 新潟県長岡市御山町80-8
T E L 0258-39-1600（代）
F A X 0258-39-9566
<http://www.nagaokauniv.ac.jp/>